

大阪の

# 森林と林業



11月

は、山に親しむ推進月間  
第2土曜は、おおさか山の日



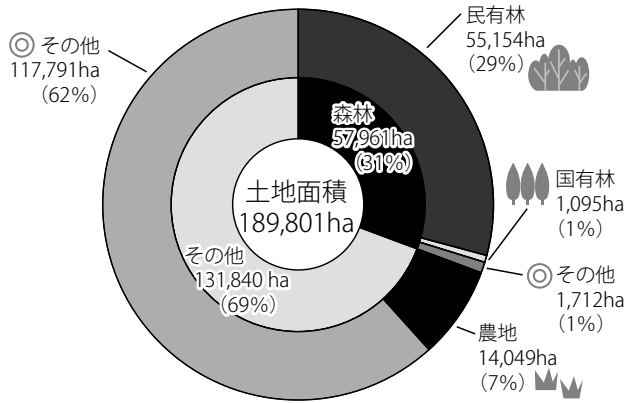
## 目 次

1	大阪の森林の分布	.....	P2
2	大阪府の森林・林業施策体系	.....	P2
3	大阪の森林・林業の概要	.....	P9
4	大阪の森林・林業・木材産業統計一覧	.....	P9
5	大阪の森林・林業の現状	.....	P10
6	大阪の木材産業の現状	.....	P15
7	地域の森林・林業の概要	.....	P19



# 1 大阪の森林の分布

大阪府域の土地利用の状況

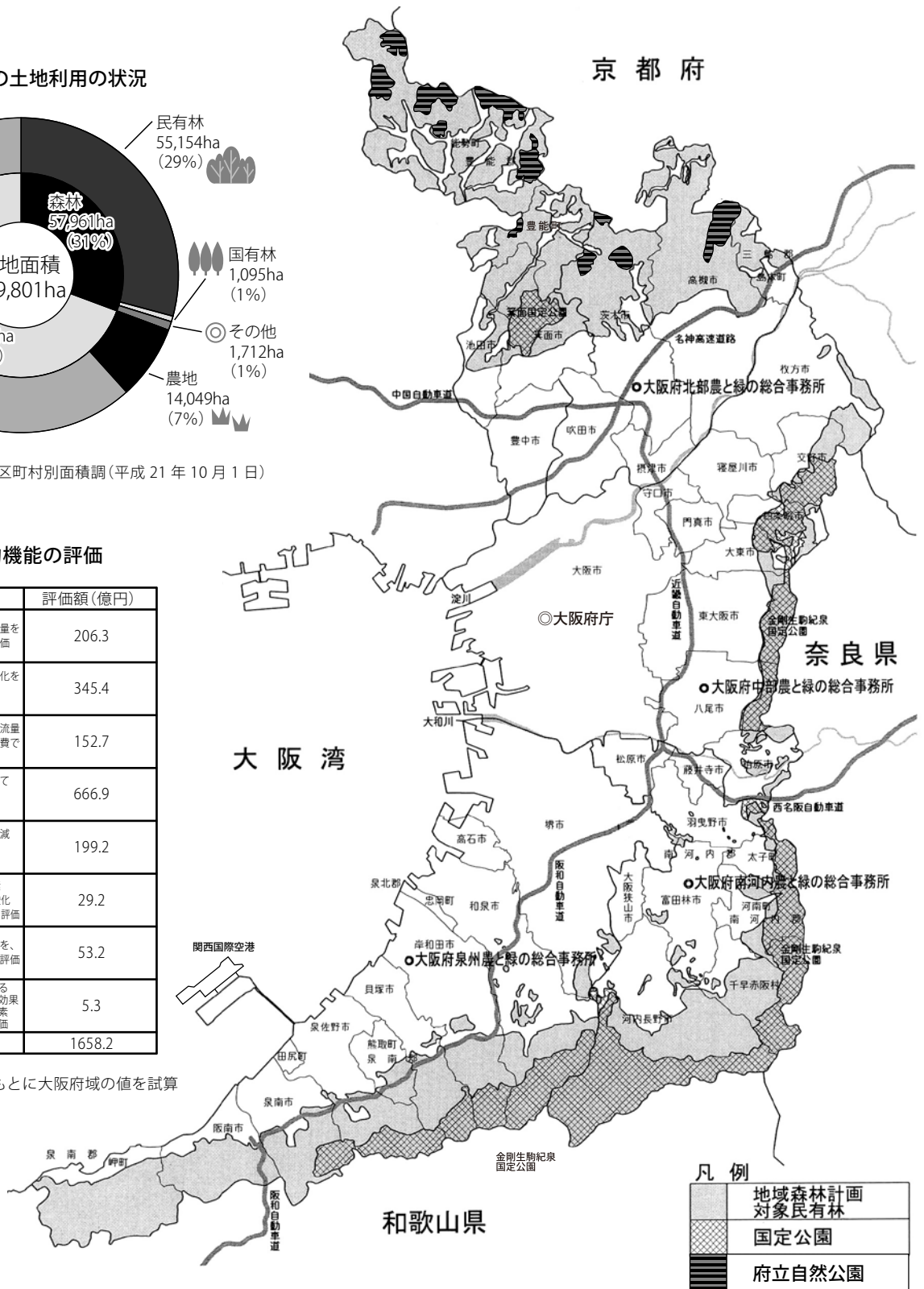


○国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成21年10月1日)

森林による多面的機能の評価

機能	評価手法	評価額(億円)
水資源貯留	森林土壌による貯留量をダム建設費より評価	206.3
水質浄化	森林による水質の浄化を水道代金で評価	345.4
洪水緩和	森林による洪水時の流量軽減効果をダム建設費で評価	152.7
表面侵食防止	森林により抑止されている土砂量をダムの建設費により評価	666.9
表層崩壊防止	森林による崩壊の軽減面積を山腹工事の費用により評価	199.2
二酸化炭素吸収	森林による二酸化炭素吸収量を化学的な二酸化炭素回収コストにより評価	29.2
保健・レクリエーション(うち保養)	森林による保養効果を、森林への旅行費用で評価	53.2
化石燃料代替	木造住宅の建築による化石燃料使用の低減効果を化学的な二酸化炭素回収コストにより評価	5.3
計		1658.2

○日本学術会議による評価をもとに大阪府域の値を試算



# 2 大阪府の森林・林業施策体系

- 大阪府の森林・林業施策は、「大阪府新農林水産業振興ビジョン」(平成13年度策定)に基づき策定した「森林プラン」に基づき推進しています。
- この森林プランは、「森林バイオマス利用推進行動計画」と「森づくり推進ガイドライン」を両輪とし、資源循環を基調とした森林管理や森林資源の有効利用とともに府民との協働による森づくりを目指します。
- また、放置され荒廃した森林は、災害の原因になることから、大阪府では、森林整備の基本方向や行動目標を定めた「放置森林対策行動計画」を平成19年8月に策定(平成22年1月一部変更)し、大阪の森林再生を目指した放置森林対策を推進します。

# 大阪府新農林水産業振興ビジョン

## 大阪府森林プラン

### 森林バイオマス 利用推進行動計画

#### 【目的】

■循環型社会の構築に向け、木質バイオマス資源等の活用を推進し、森の資源を都会に活かす「森林バイオマス利用先進都市」を目指す。

#### 【展開方向】

##### 1 森と木にふれあう暮らしの創造

- 木材利用による健康的な生活空間の創造
- 顔の見える木材による家づくり推進
- 公共部門等における木材利用の推進
- 炭を活用した安心・快適な生活環境の提供



木製谷止工

##### 2 森林バイオマス産業の創出

- 木質ペレットを中心としたエネルギー利用
- 産学民官協同による新産業の創出
- 資源のカスケード(多段階)利用の推進
- 森のコミュニティービジネスの育成



木質ペレット

##### 3 都市の健康を育む森づくり

- 府民の安全・安心を確保する森づくり
- 里山林の元気回復
- 健康づくりの場としての里山林等の利用



手入れの行き届いた健全な人工林

連携

### 森づくり推進 ガイドライン

#### 【目的】

■ガイドラインに示す仕組みに基づき、多様な主体による多様な森づくりを府民と協働で実施する。

#### 【仕組み】

#### 森づくりサポート協議会

【各事務所が事務局】

- 構成：府・市町村・地元代表・林業団体等
- 森づくり活動を施策・技術・人材面から支援

連携・支援

#### 森づくり委員会(活動団体)

- ボランティア団体・NPO・企業・行政等で構成し、整備目標に基づき活動する団体
- (平成22年3月末現在、森づくり委員会は20団体)



森づくり委員会の森林整備

#### 【展開方向】

- 森づくり委員会による森づくり活動の推進
- おおさか「山の日」・「山に親しむ推進月間」
- 森林ボランティアリーダー等の育成 等

### 放置森林対策 行動計画

平成19年3月 大阪府森林審議会答申

「放置森林に関する新たな森林管理システム」

システムの実行にあたっては、

- ・いつまでに、どこをどれだけといった、具体的な整備目標
- ・森林所有者、府民、ボランティア、企業、行政など関係者の役割や参加方法の明確化が必要

### 放置森林対策行動計画基本施策

- ①地域指定型の対策  
地域との対話による取り組みを進めます
- ②キャラバン型の対策  
森林所有者、府民との対話による取り組みを進めます
- ③放置森林発生防止対策  
都市との対話による取り組みを進めます

#### 具体的 取組内容

- 森林機能再生重点地域の指定
- アドプトフォレスト制度の推進
- 大阪府木づかい CO2 認証制度
- 生駒山系花屏風構想の推進 など

#### 【効果】

- 森林の多面的機能の発揮
- 地球温暖化防止
- 府民協働による森づくり活動の拡大
- 森林整備を通じた木材利用推進 等

# 大阪府森林プラン

## I 大阪府森林バイオマス利用推進行動計画の取組み事例

### ◆公共部門等における木材の利用推進

○ 庁内に 10 部局 15 室課からなる木材利用促進庁内連絡会を設置し、連絡会で策定した「大阪府木材利用推進指針」(平成 15 年 3 月策定、平成 19 年 11 月改訂)に基づき、関係部局と連携し、公共事業での木材利用を推進しています。

#### ■平成 21 年度実績

木材目標量 2,100 m<sup>3</sup> → 実績 1,036 m<sup>3</sup>



府内産木材使用の木製流路工(茨木市上音羽)



森林鉄道風歩道橋(交野市ほしだ園地)

### ◆木質ペレットを中心としたエネルギー利用

- 大阪府森林組合では、間伐材等を有効に活用するため、木材の資源化を行っています。
- 木材破砕機(タブ・グラインダー)で破砕された木材は、木質チップとして法面のマルチング材や燃料等に、また、ペレットはストーブや温泉のボイラー燃料として利用されています。



木材破砕機(タブ・グラインダー)



木質ペレット

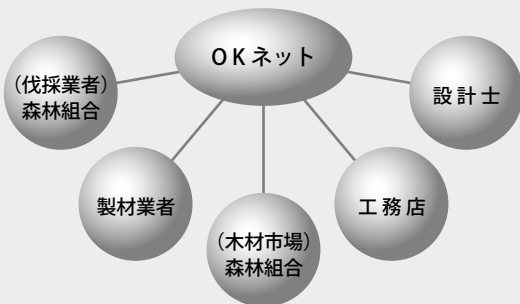


ペレットストーブ

### ◆顔の見える木材による家づくりの推進

- 平成 17 年 6 月に大阪の森林の再生、林業の振興、地元材や自然素材を使った安全安心な家づくりを進めるため、森林組合・設計士・工務店等が集まり「おおさか河内材利用促進ネットワーク協議会(OK ネット)」を設立しました。OK ネットでは、地元材である「おおさか河内材」を広く府民に宣伝・普及し、森林に親しみ、林業を身近に感じられる取り組みをすすめるため、木工教室などのイベントを企画運営しています。

#### OK ネットの構成メンバー



おおさか河内材の家



OK ネットによる木工教室

### ◆間伐材共同収集の推進

- これまで林内に放置し、利用されていなかった間伐材について森林所有者等が収集・搬出しチップ化して民間企業が買取り・利用していく取り組みを進めることにより、森林所有者の間伐材搬出利用に対する意識の向上を図るとともに、木質バイオマス利用による低炭素社会作りを進めます。



収集された間伐材



間伐材チップ化の状況

## II 大阪府森づくり推進ガイドラインの取組み事例

### ◆森づくりサポート協議会と森づくり委員会

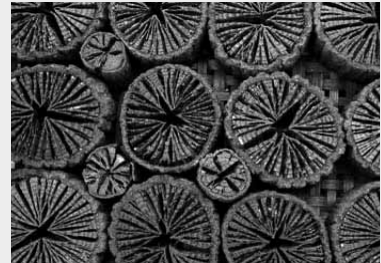
- 森づくり委員会では、貴重な環境資源である森林を有効に活用し、その多面的機能を発揮させながら適切に保全整備・管理を行っていくため、林業者、森林所有者のみならず、地域住民、都市住民、教育関係者、企業、行政などの多様な主体で構成され、地区・集落ごとの森づくりや情報発信等を行っています。
- また、森づくりサポート協議会では、府内5つの地区(各事務所単位)毎に自然環境や地域社会の特色を活かした森づくりの推進を議論しながら、地区内の森づくり委員会がより活発に活動ができるよう支援を行っています。
- 現在、府内で5つの森づくりサポート協議会と20の森づくり委員会があります。(平成22年4月現在)。



多様な主体による森づくり委員会



府民協働の森づくり



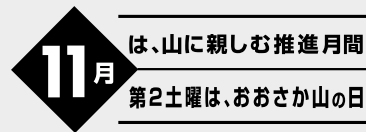
池田炭の復興

### ◆府民協働の森づくり

#### 「山に親しむ推進月間」とおおさか「山の日」

- 府民が森づくりに関わるきっかけを増やし、「森づくり推進ガイドライン」に基づく府民協働の森づくりをより活発にするため、平成17年度より11月を「山に親しむ推進月間」、同月第2土曜日をおおさか「山の日」と制定しました。
- 「山に親しむ推進月間」中は、関係団体の協力により、山で楽しみ、森林の機能を学び、環境を守り育てる契機となるイベントを府内各地で開催しています。

年度	イベント数	参加者数
平成17年度	93件	約25,000人
平成18年度	78件	約31,000人
平成19年度	82件	約61,000人
平成20年度	73件	約46,000人
平成21年度	89件	約69,000人



【間伐体験】  
平成21年度 生駒  
「山の日」フェスティバル  
(東大阪市)



【植樹体験】  
平成21年度  
生駒の山を飾ろう！  
おおさか山の日ハイク

### ◆府民参加の「森づくり」に向けた人材養成

- 大阪府では、府内の市町村等が森林整備に関する知識や技術等を有する人材を養成するために開催する森林ボランティア養成講座を支援し、地域の森づくり活動の活発化と府民協働の森づくりの推進を図っています。



森林ボランティア  
養成講座  
(枚方市)



森林ボランティア  
養成講座 現地実習  
(河内長野市)

# 放置森林対策行動計画

## ◆対象とする森林

- 林齢 55 年生以下で、過去 10 年以上間伐などの手入れがされていない、あるいは間伐が遅れて林内が暗く、土壌の流出などが見られる人工林。
- タケノコや竹材の採取が行われず、過密になったり、隣接する森林に拡大している竹林。

## ◆計画の期間

- 平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間とし、京都議定書の第一約束期間を見据えた平成 24 年度までの「前期」、平成 25 年度から平成 28 年度までの「後期」に区分する。

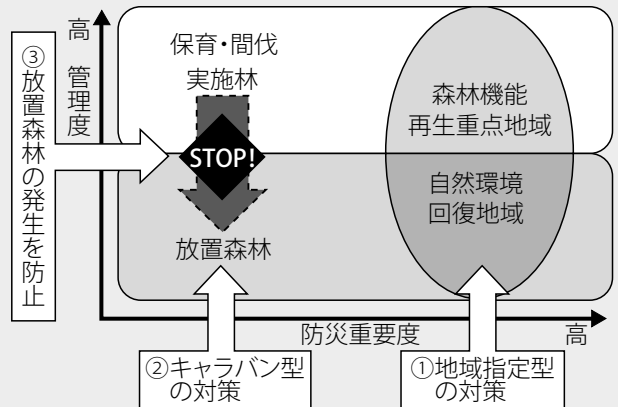
## ◆展開方向

- 森林所有者の理解のもと、森林を地域社会の共有財産ととらえ、地域社会全体で支える。
- 多様な樹種で構成される環境林、森林整備と木材利用が一体となった循環林を目指す。



## ◆基本施策

- ① 地域指定型対策 『まずは重要なところから』**  
○森林の重要度を考慮し、特に重要な地域については「地域指定型」の対策を展開する。
- ② キャラバン型対策 『府民みんなで大掃除』**  
○森林を地域社会全体で支えていくため、放置森林登録制度を創設し、フォレストセイバー隊による管理を進める。
- ③ 放置森林発生防止対策 『経営意欲の醸成』**  
○木材利用を一層拡大し、森林の循環利用を推進することにより、森林所有者の経営意欲を高める。



## ◆行動目標

- 基本施策
- ① 地域指定型対策
  - ② キャラバン型対策
  - ③ 放置森林発生防止対策

○人工林間伐実施面積

間伐実施率	3～7 齢級	現状 72% → 目標 100%
間伐実施率	8～11 齢級	現状 25% → 目標 75%
前期 (H19～24)		目標 6,100 ha
後期 (H25～28)		目標 4,000 ha

○竹林整備面積 目標 270 ha

## ◆具体的取組み事例

- 森林機能再生重点地域**  
・防災機能などの観点から、特に重要な森林を指定し、優先的に放置森林対策を推進する。
- アドプトフォレスト 冒険の森づくり**  
・企業との連携により、次世代を担う子どもたちの育成の場として森林を活用する。
- フォレストセイバー隊**  
・NPO や森林ボランティア団体等で構成されるフォレストセイバー隊を放置森林に派遣する。
- 大阪府木材利用クラブ**  
・地域材を用いた製品の購買者に対し、大阪府が CO<sub>2</sub> 固定量を認定する。

# 具体的取組内容

## アドプトフォレスト制度

### 【目的】

企業等の環境CSRの取組みにより、放置された森林の広葉樹林化等を促進

### 【目標とする森林】

- ①地球温暖化防止に貢献する森林
- ②災害や防災に強い森林
- ③生物多様性に富んだ森林
- ④府民が憩える森林



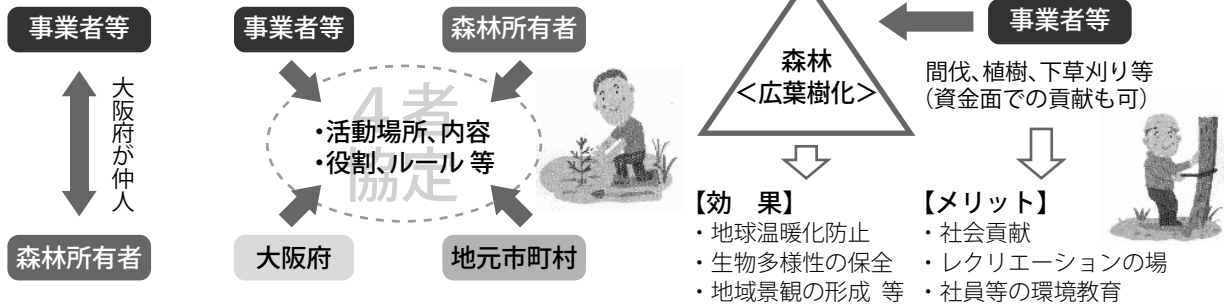
府内で32社・団体がアドプトフォレストに参加(平成22年11月現在)

企業や団体の力で元気を森を作ります。

## アドプトフォレスト制度の仕組み



- ①対象地域を決めます
- ②「4者協定」を結びます
- ③森づくりの活動を行います(原則5年間)



## 大阪府木づかいCO<sub>2</sub>認証制度

### 【制度の概要】

- 企業や団体に木材製品を利用してもらうため、大阪府が木材製品に固定されたCO<sub>2</sub>量を認証する「製品認証制度」と木材製品を購入した企業等にCO<sub>2</sub>の固定量を認定する「固定量認定制度」の2つの仕組みから構成(平成19年度創設)
- 「製品認証制度」は木材製品の加工、販売に関わる企業や団体等で構成される「大阪府木材利用クラブ」の会員が製造、販売する木材製品に固定されているCO<sub>2</sub>の量を大阪府が認証
- 会員から申請のあった製品の地域産材の量から、その製品のCO<sub>2</sub>固定量を算定し、大阪府が固定量を認証。認証を受けた会員は、その製品に認証ラベルを貼って販売することが可能。
- 「固定量認定制度」は、認証を受けた木材製品を購入した企業等に対して、CO<sub>2</sub>の固定量を認定する「木づかいCO<sub>2</sub>認定証」を大阪府が交付。



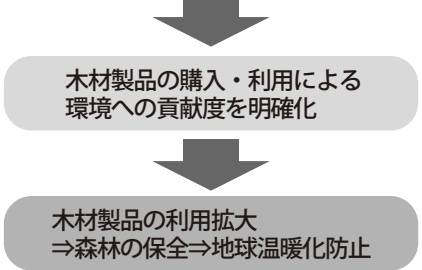
間伐材片袖机

CO<sub>2</sub>固定量: 15.7kg-CO<sub>2</sub>



ピュア・プランター

CO<sub>2</sub>固定量: 34.5kg-CO<sub>2</sub>



### 木づかいCO<sub>2</sub>認証制度

#### 概要

#### 【製品認証制度】

木材利用クラブ会員  
(製造・販売者)

- ①木材製品のCO<sub>2</sub>固定量認証を申請
- ②CO<sub>2</sub>固定量を認証

大阪府

#### 木材製品のCO<sub>2</sub>固定量算定式

使用木材量(m<sup>3</sup>)×樹幹密度(kg/m<sup>3</sup>)×炭素含有率×C→CO<sub>2</sub>換算係数=CO<sub>2</sub>固定量(kg)

#### 【固定量認定制度】

木材利用クラブ会員  
(製造・販売者)

- ①認証製品を販売
- ②認定証交付を申請
- ③CO<sub>2</sub>固定量認定証を交付

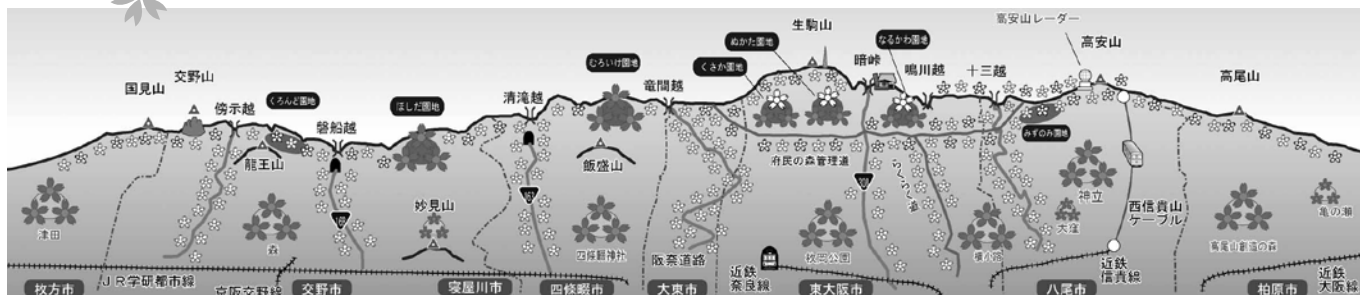
木材製品  
購入企業・団体

大阪府

<http://www.pref.osaka.jp/midori/midori/g-10kidukai.html>



# 生駒山系花屏風構想の推進



## ◆目的

大阪の市街地から見渡せる生駒山系を屏風に見立て、府民との協働で花木や紅葉の美しい樹木を植樹し、府民に愛される自然資源として整備することにより、森林への関心を高めるとともに、放置森林問題への理解を深めてもらうことを目的とする。

**目標** 平成 21 ～ 35 年度中に 1 万本を植栽

## ◆背景

- ササやクズの繁茂、竹林の無秩序な拡大など、荒廃森林が増加し、防災などの機能面から生駒の森林は、危機的な状況にある。
- こうした状況から府民や来阪者からよく見える生駒山系を美しく整備し、大阪がみどりを大切にする国際都市であることをアピールすることを通じて、生駒山系の森林に対する府民や管理意欲の低下した森林所有者の理解を進め、府内全体の放置森林対策につなげていく。

## ◆基本方針

- ◎人が集まる「花広場」  
府民の森園地や野外活動センターなど府民が集まる場所を花木の名所にする
- ◎街から望む「花屏風」  
稜線や、開けた場所など、街から見える場所を花木で彩る
- ◎人が行きかう「花回廊」  
生駒越えの主要道路や旧街道沿いなどの動線を花木で飾る



## ◆整備の進め方

- 府民、ボランティア団体、企業、各種協議会などとの協働で実施する。
- 30 年後の生駒山系の姿を見据え、ヤマザクラなどの花木や紅葉の美しい樹木を植栽する。
- 花や紅葉の名所が各市に一カ所以上配置されることを目標とする。

## ◆取組み状況

「花屏風構想」について府民や企業等への周知及び協力の呼びかけを通じて取組みを推進。

**〔21 年度末までの取組み実績〕**

- ◎実施地区  
交野市森地区、四條畷市下田原地区、東大阪市内四条地区ほか 15 地区
- ◎企業等による苗木提供の協力・企業等による植栽活動への取組み  
苗木提供：約 600 本(1 企業・2 団体) 植栽活動：3 企業・13 団体
- ◎植栽本数実績  
2,021 本



**花屏風応援団を募集しています！**  
～みんなで生駒山を花のあふれる山にしましょう～

### 3 大阪の森林・林業の概要

#### ■ 大阪府の森林の概要

- 大阪府の森林は、府域の約3割を占め、北から北摂、金剛生駒、和泉葛城の三山系からなり、都市化が進んだ大阪平野を取り巻く形で位置している。
- 林野率は、全国の67%に比べ31%と全国最低ではあるものの、人工林率は49%と、全国平均の41%を上回っている。
- 森林の98%を民有林が占め、その内の約9割が私有林である。
- 人工林蓄積は、奈良吉野林業の流れを汲み、約300年もの伝統に培われた河内林業地帯を擁する南河内、泉州東部地域で約45% (2,214千m<sup>3</sup>) を占めている。
- 南河内、泉州東部地域以外の地域は、アカマツ、クヌギ、コナラ等が多く、全般的に人工林率は低い。

### 4 大阪の森林・林業・木材産業統計一覧

区 分		単 位	数 量	デー 年 タ 度	区 分		単 位	数 量	デー 年 タ 度
林 野 率 <small>(地域森林計画対象民有林+国有林+その他) 土地面積</small> ×100		%	31	H21	生しいたけ年間生産量		t	237.2	H21
					乾しいたけ年間生産量		t	4.7	H21
府民1人当たり森林面積		m <sup>2</sup>	66	H21	たけのこ年間生産量		t	76.9	H21
					木炭年間生産量		t	12.5	H21
森 林 面 積	合計	ha	56,249	H21	素 材 需 要 量	合計	千 m <sup>3</sup>	19	H21
	地域森林計画対象民有林	ha	55,154	H21		国産材	千 m <sup>3</sup>	6	H21
	国有林	ha	1,095	H21		外材	千 m <sup>3</sup>	13	H21
民 有 林 蓄 積	合計	千 m <sup>3</sup>	7,690	H21	外材率		%	68	H21
	人工林蓄積	千 m <sup>3</sup>	5,033	H21	素 材 生 産 量	合計	千 m <sup>3</sup>	7	H21
	天然林蓄積	千 m <sup>3</sup>	2,657	H21		製材用素材	千 m <sup>3</sup>	4	H21
人工林面積	ha	27,088	H21	チップ用素材		千 m <sup>3</sup>	3	H21	
人工林率	%	49	H21	新設住宅着工戸数		戸	54,444	H21	
保安林率	%	29	H21	木造住宅戸数		戸	22,832	H21	
林道密度(自動車道)	m/ha	4.8	H21	木造率		%	41.9	H21	
林業産出額	千円	400,000	H20	製 材 等 工 場 数	合計	工場	61	H19	
林家数 (保有山林1ha以上)	戸	6,118	H17		製材工場数	工場	55	H19	
くりの年間生産量	t	28.6	H21		木材チップ工場数	工場	6	H19	

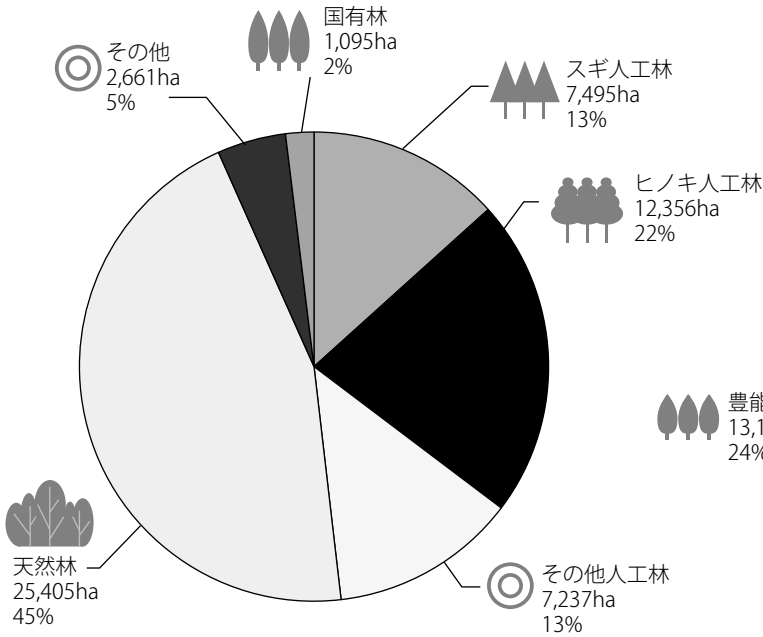
# 5 大阪の森林・林業の現状



## 1 森林面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 地域森林計画対象民有林と国有林が府域に占める割合は31%
- 人工林率は49%と全国の41%を上回る

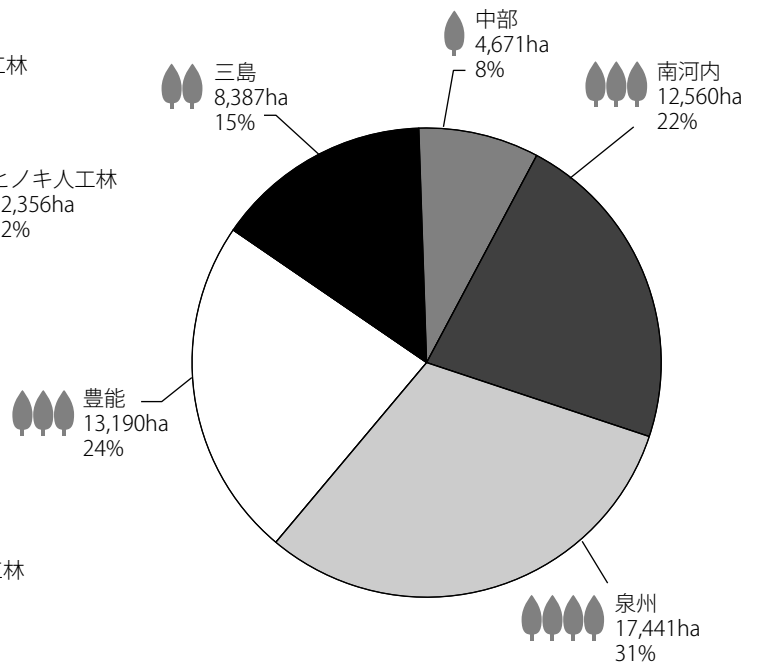
森林面積(平成21年度)  
56,249ha



## 2 地域別森林面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 南河内、泉州地域で森林の約5割を占める

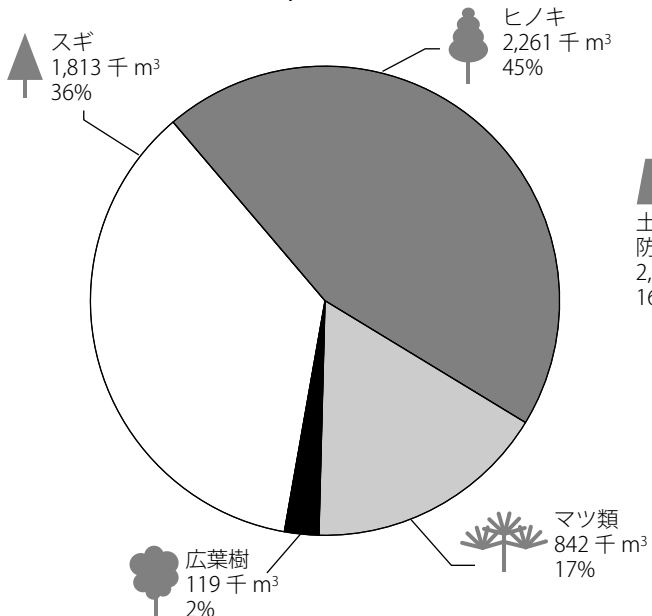
地地域別の森林面積内訳(平成21年度)  
森林面積計 56,249ha  
(地域森林計画対象民有林+国有林)



## 3 人工林樹種別蓄積 (府みどり・都市環境室調べ)

- ヒノキ(45%)、スギ(36%)で人工林蓄積の約8割を占める

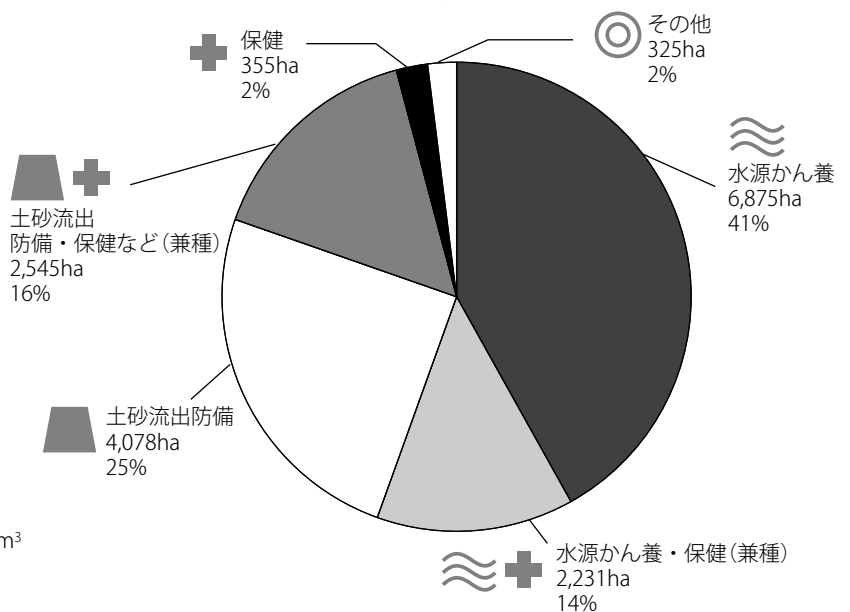
人工林の樹種別蓄積(平成21年度)  
5,034千m<sup>3</sup>



## 4 保安林種類別指定面積 (府みどり・都市環境室調べ)

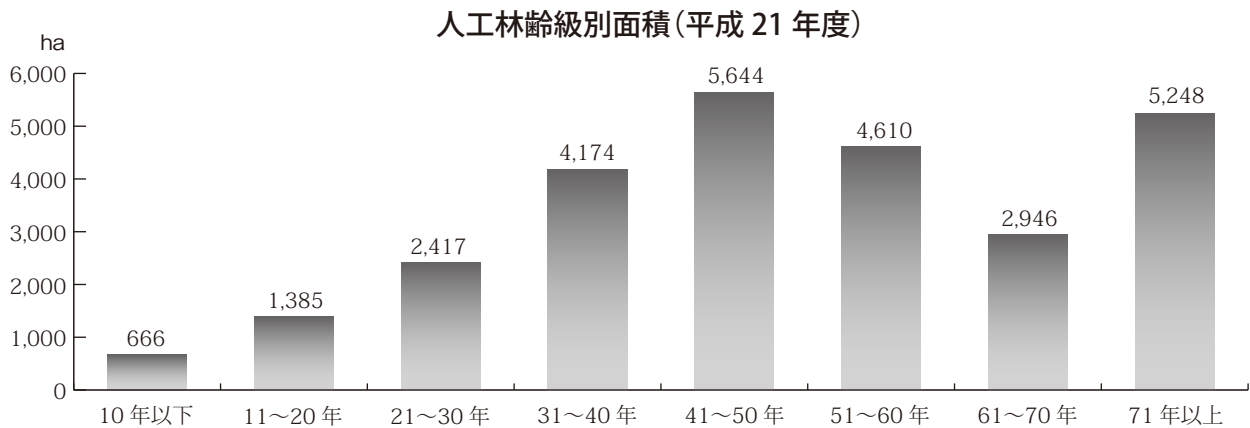
- 保安林指定面積は約16,000haで、府内森林面積の約3割を占める
- 水源かん養保安林と土砂流出防備保安林が、保安林面積の約7割を占める

保安林の内訳(平成21年度)  
16,409ha



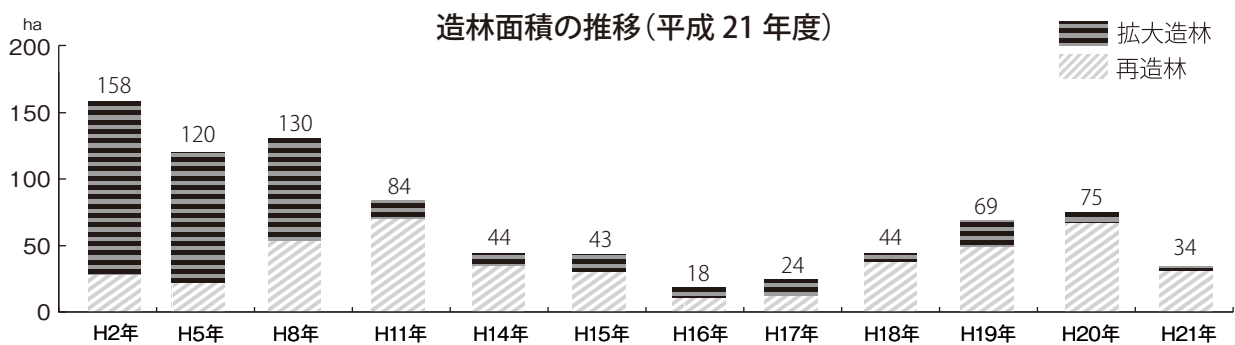
## 5 人工林齢級別面積 (府みどり・都市環境室調べ)

- 7～10 齢級(31年～50年生)の林分が人工林の約4割を占める
- 間伐対象齢級3～7 齢級(11年～35年生)の林分が約6千haで人工林の約2割



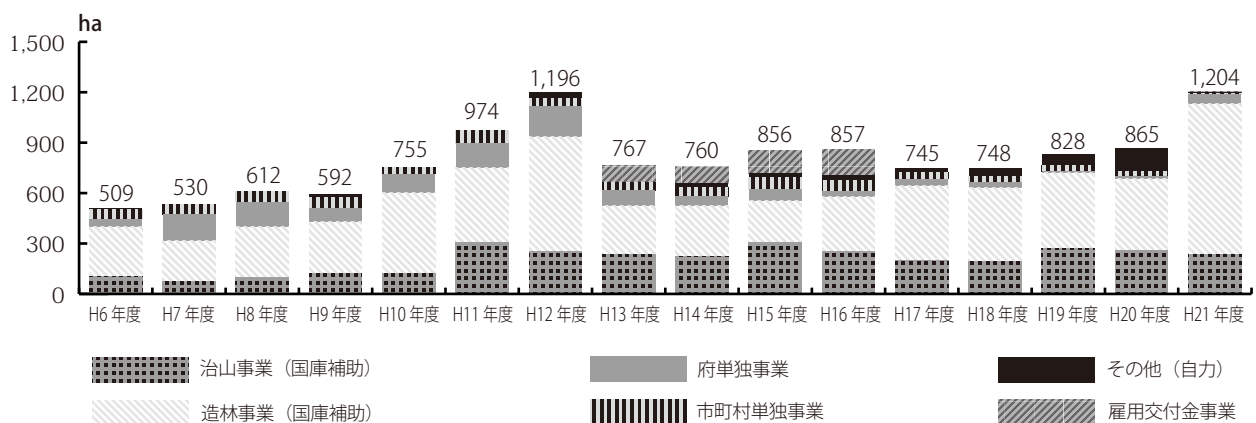
## 6 造林面積の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

- 造林面積は、平成2年度の拡大造林主体の約160haをピークに減少傾向で推移
- 近年は再造林の占める割合が高くなっている。



## 7 間伐実施面積の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

- 平成12年度をピークに平成13年度以降は800ha前後で推移していたが、平成18年度以降は増加傾向
- 放置森林対策行動計画の間伐前期目標量(H19～H24)6,100haに対する進捗率は約47%(H19～H21実績)となっている。



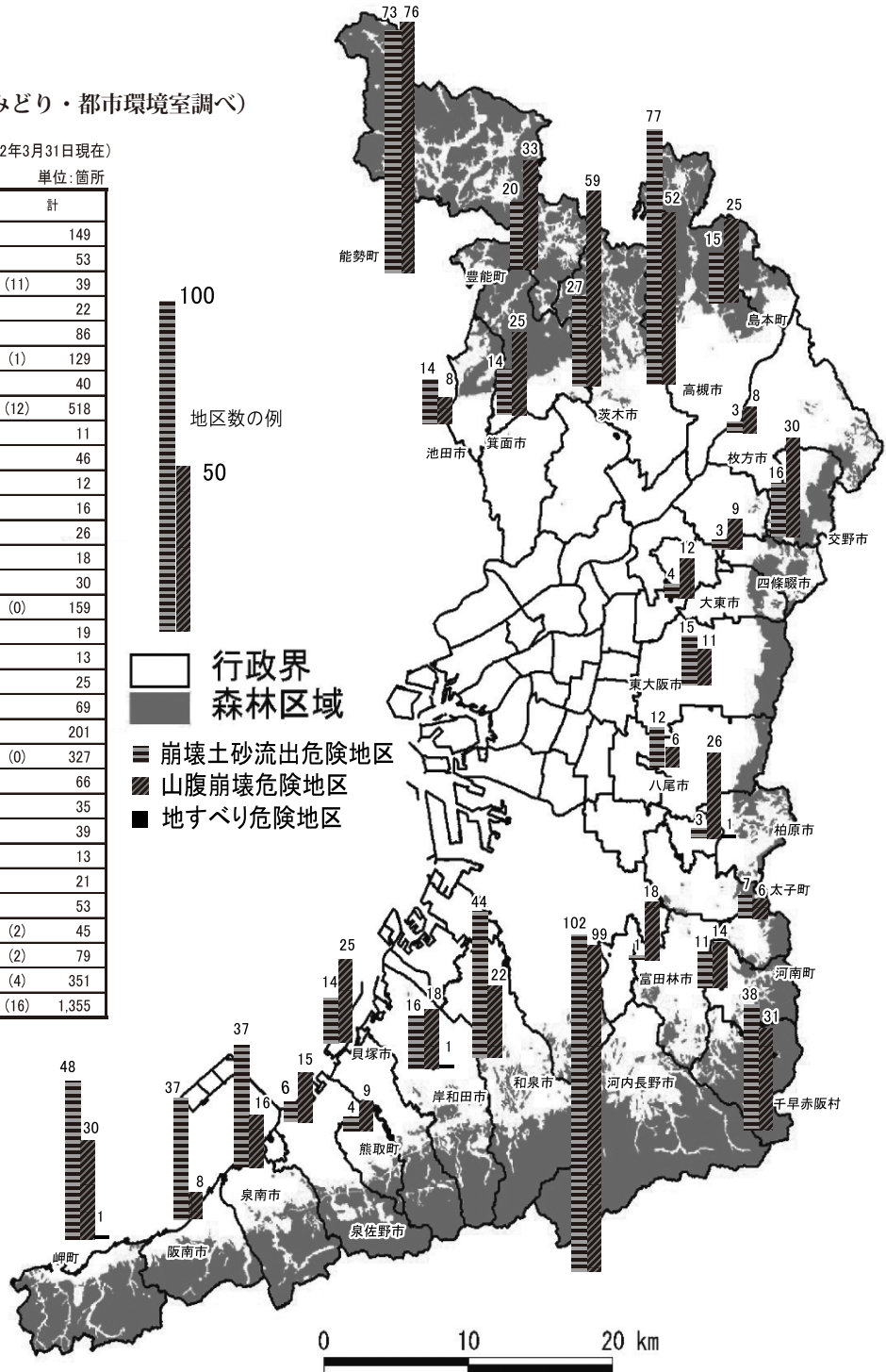
## 8 山地災害危険地区箇所数 (府みどり・都市環境室調べ)

(平成22年3月31日現在)

単位:箇所

事務所	市町村	山腹崩壊危険地区	地すべり危険地区	崩壊土砂流出危険地区	計			
北部 農と緑の 総合事務所	能勢町	76	0	73	149			
	豊能町	33	0	20	53			
	箕面市	(6)	25	0	(5)	14	(11)	39
	池田市	8	0	14	22			
	茨木市	59	0	27	86			
	高槻市	52	0	(1)	77	(1)	129	
	島本町	25	0	15	40			
	小計	(6)	278	0	(6)	240	(12)	518
中部 農と緑の 総合事務所	枚方市	8	0	3	11			
	交野市	30	0	16	46			
	四條畷市	9	0	3	12			
	大東市	12	0	4	16			
	東大阪市	11	0	15	26			
	八尾市	6	0	12	18			
	柏原市	26	1	3	30			
	小計	102	1	(0)	56	(0)	159	
南河内 農と緑の 総合事務所	富田林市	18	0	1	19			
	太子町	6	0	7	13			
	河南町	14	0	11	25			
	千早赤阪村	31	0	38	69			
	河内長野市	99	0	102	201			
	小計	168	0	(0)	159	(0)	327	
泉州 農と緑の 総合事務所	和泉市	22	0	44	66			
	岸和田市	18	1	16	35			
	貝塚市	25	0	14	39			
	熊取町	9	0	4	13			
	泉佐野市	15	0	6	21			
	泉南市	16	0	37	53			
	阪南市	8	0	(2)	37	(2)	45	
	岬町	30	1	(2)	48	(2)	79	
小計	143	2	(4)	206	(4)	351		
合計	(6)	691	3	(10)	661	(16)	1,355	

※( )は国有林内の地区数で外数

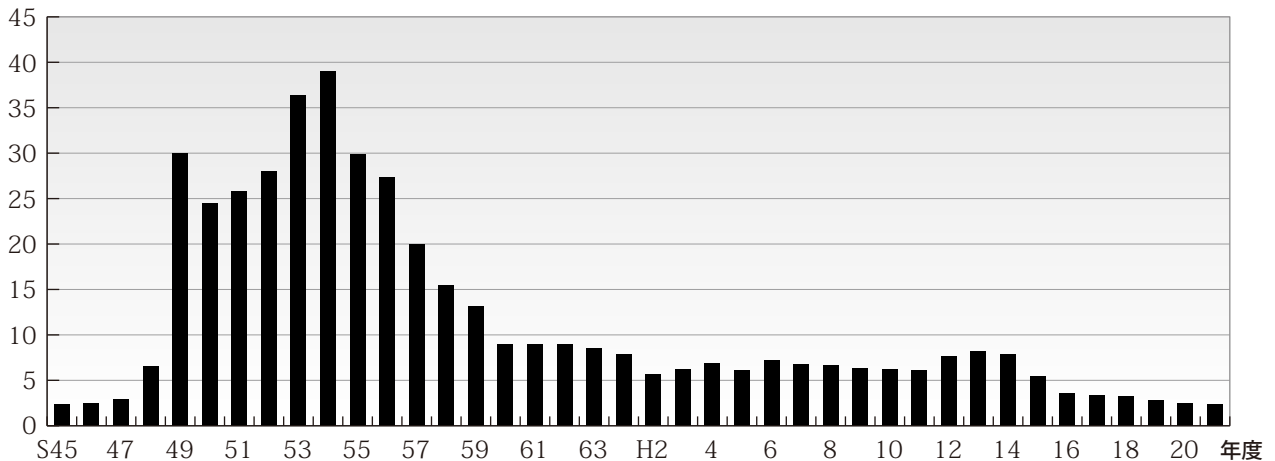


## 9 松くい虫被害量の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

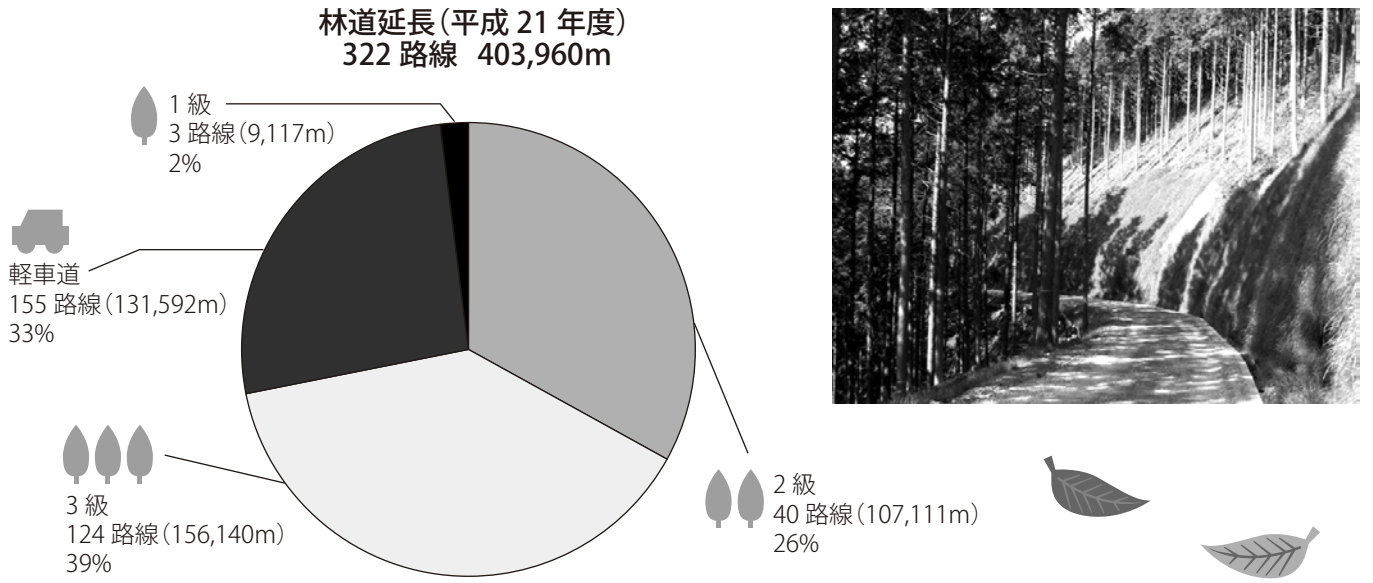
- 府における近年の松くい虫被害量は、概ね3千m<sup>3</sup>を下回る被害量で推移
- 昭和54年度のピーク時(39千m<sup>3</sup>)と比較すると7%にまで減少

被害材積(千m<sup>3</sup>)

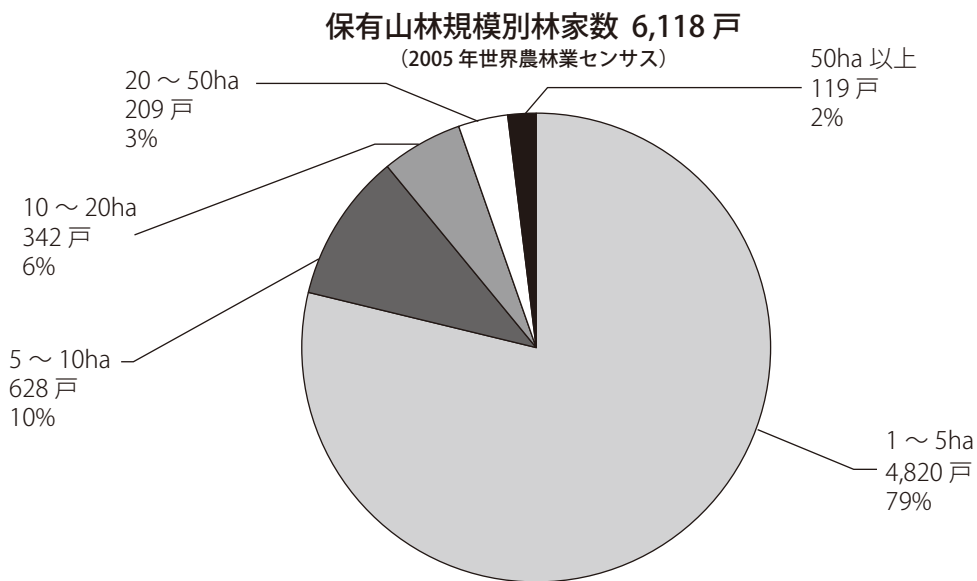
松くい虫被害量(平成21年度)



## 10 林道延長(府みどり・都市環境室調べ)

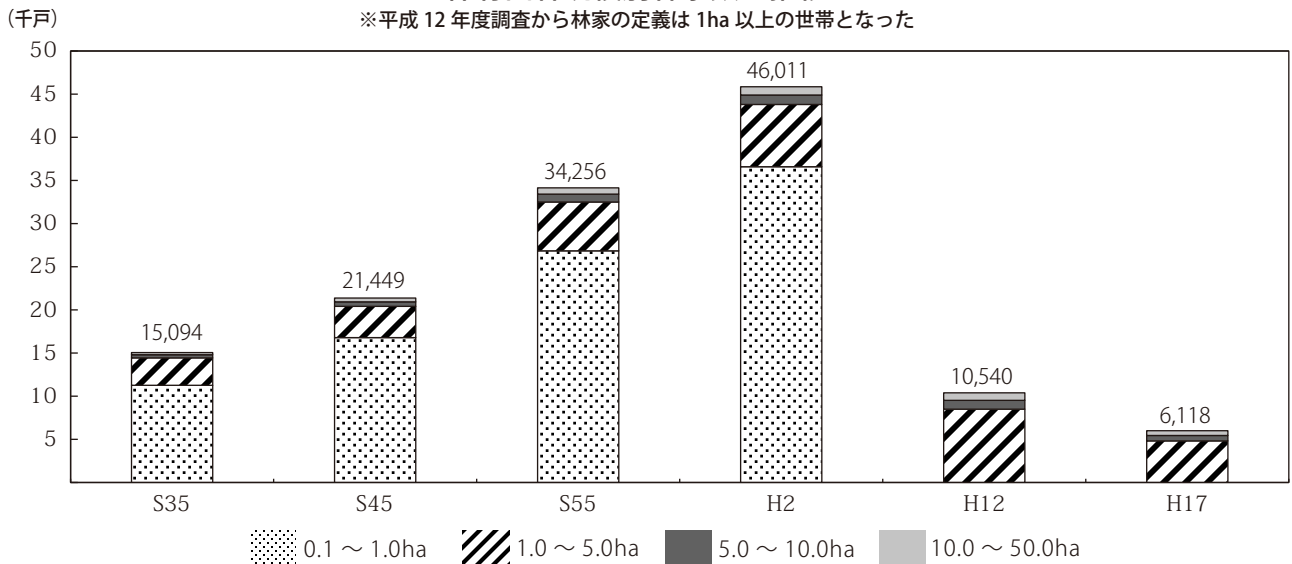


## 11 保有山林規模別林家数及び林業者数の推移(各年世界農林業センサス・2005年農林業センサス)

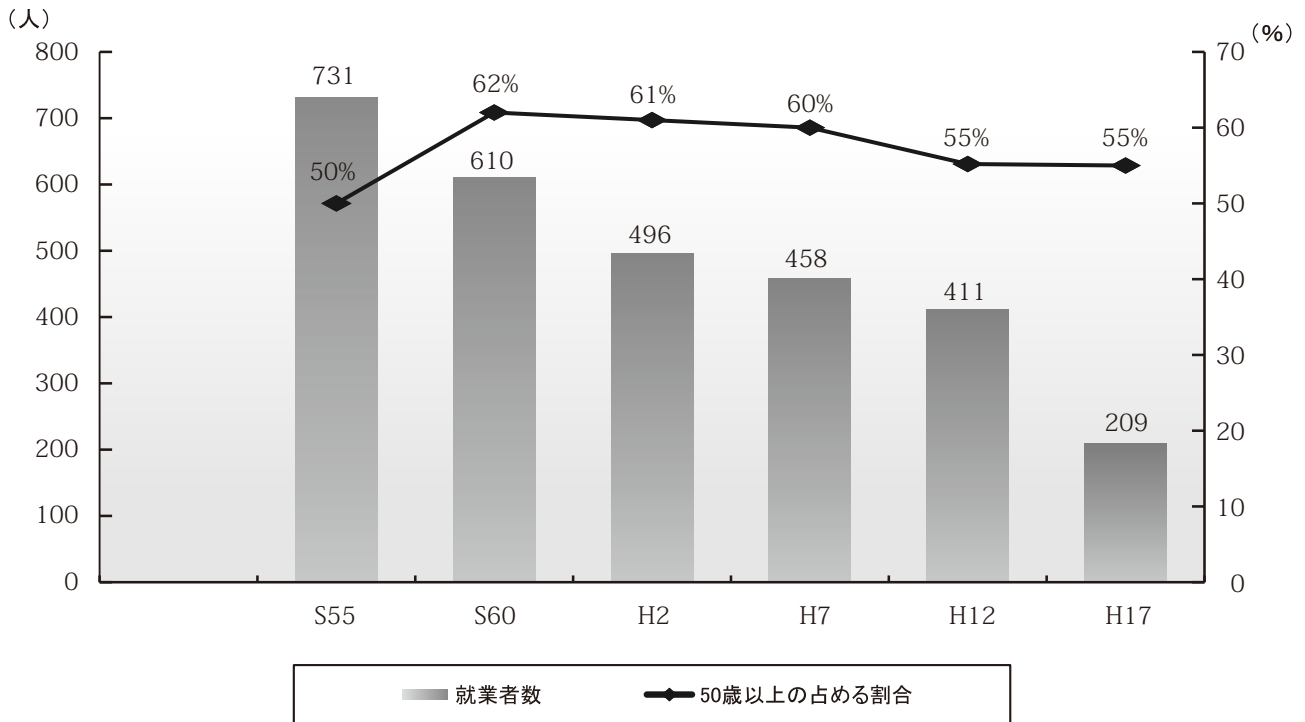


### 保有山林規模別林家数の推移

※平成 12 年度調査から林家の定義は 1ha 以上の世帯となった



## 12 林業就業者数と50歳以上の占める割合の推移(国勢調査)



## 13 大阪府森林組合の概要 (平成22年6月現在)

### ■ 沿革

- ・平成13年10月19日 府内16森林組合が合併し、府内全域を組合の地区とする大阪府森林組合が設立
- ・平成14年2月1日 大阪府森林組合が大阪府森林組合連合会の権利義務を継承

### ■ 組織

【本店】大阪府中央区南本町

【支店】豊能支店(能勢町)、三島支店(高槻市)、南河内支店(河内長野市)、泉州支店(和泉市)

【その他】市町村を単位に選出された地区推進委員による地区推進協議会を設置

### 【運営施設】

- ・能勢木材加工センター(能勢町)
- ・高槻森林観光センター、高槻森林市民交流センター、森林資源加工センター(以上、高槻市)
  - ・ウッドベースかわちながの(河内長野市)
  - ・ラ・フォレスタ(南河内林業総合センター)、木材共販所、南河内樹木リサイクルセンター(以上、千早赤阪村)



高槻森林観光センター



ウッドベースかわちながの



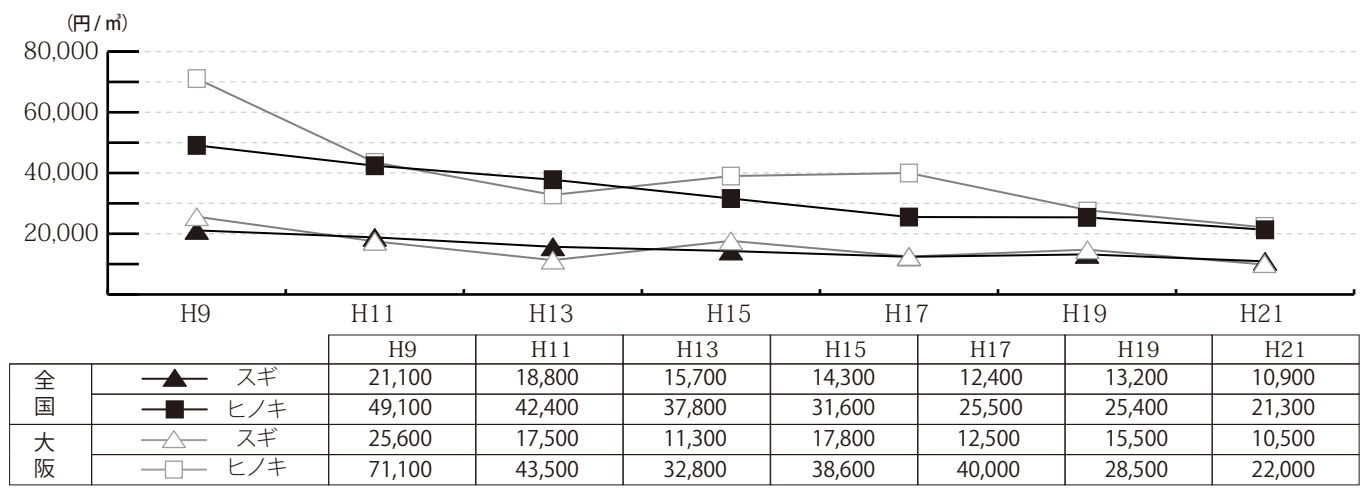
木材共販所

区分	組合員 (人)	役員 (人)	出資金 (千円)	組合員経営 森林面積 (ha)	作業班員 (人)	常勤職員 (人)
大阪府森林組合	7,046 (准組合員含で7,115)	25 (内常勤1)	204,582	36,770	165	85

# 6 大阪の木材産業の現状

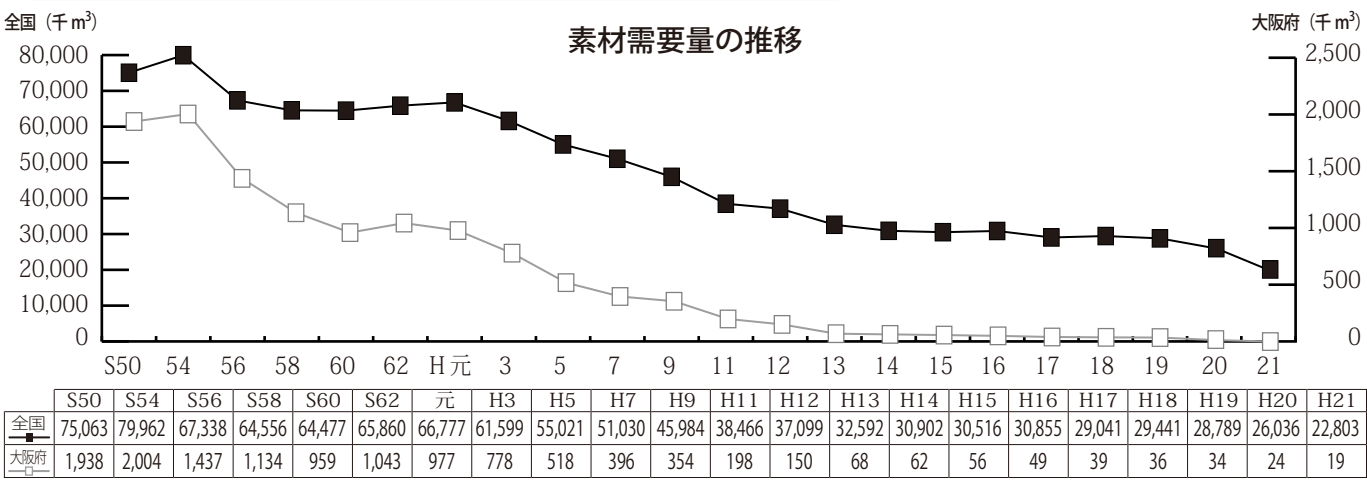
## 1 木材価格の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

○府内産スギの平成 21 年価格は全国平均を下回る 10,500 円で、平成 9 年と比較して 0.4 倍に低下  
 ○府内産ヒノキの平成 21 年価格は、22,000 円と平成 9 年に比べると 0.3 倍に低下



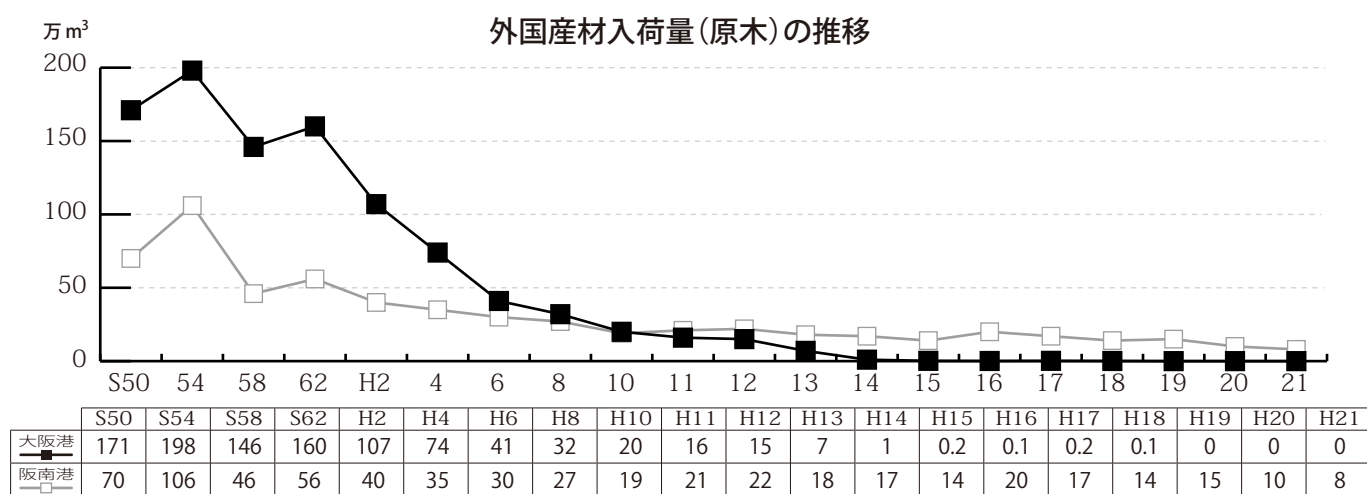
## 2 素材需要量の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

○素材需要量は、全国、府内とも近年低調に推移  
 ○木材原産国の原木輸出規制に伴う製品輸入増加等により減少が続いている



## 3 外国産材入荷量(原木)の推移 (府みどり・都市環境室調べ)

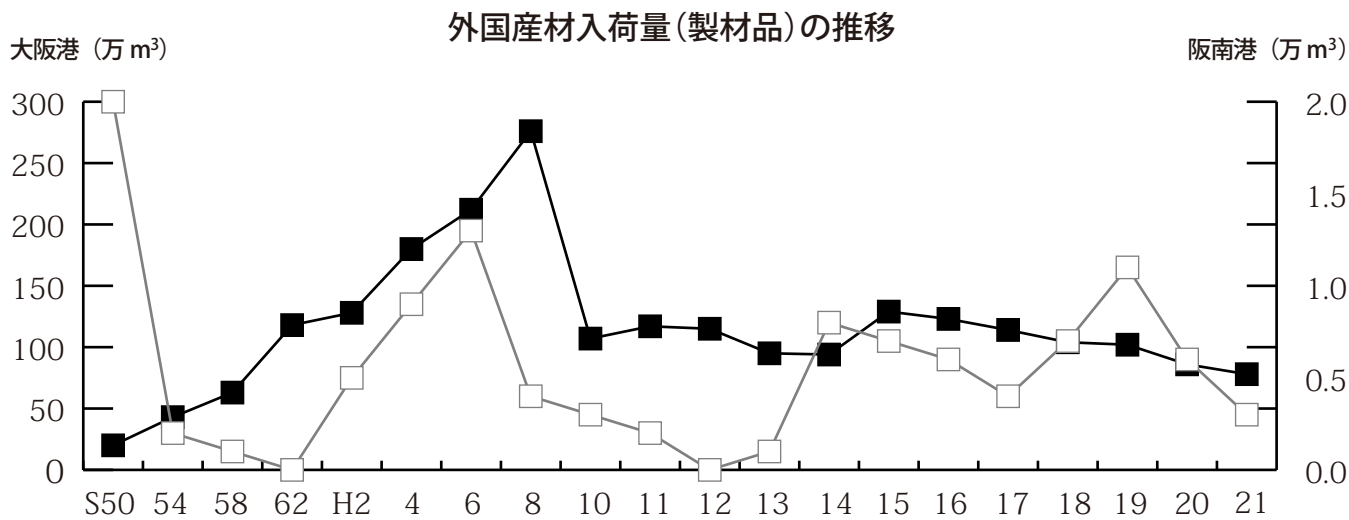
○昭和 40 年代は、年間 200 万 m³ 前後で推移していたものの、昭和 50 年代以降の原木輸出規制に伴い急激に減少。  
 ○平成 10 年は両港で 40 万 m³ であったが、平成 21 年は約 8 万 m³ と最盛期の 1/20 までに減少。





#### 4 外国産材入荷量(製材品)の推移(府みどり・都市環境室調べ)

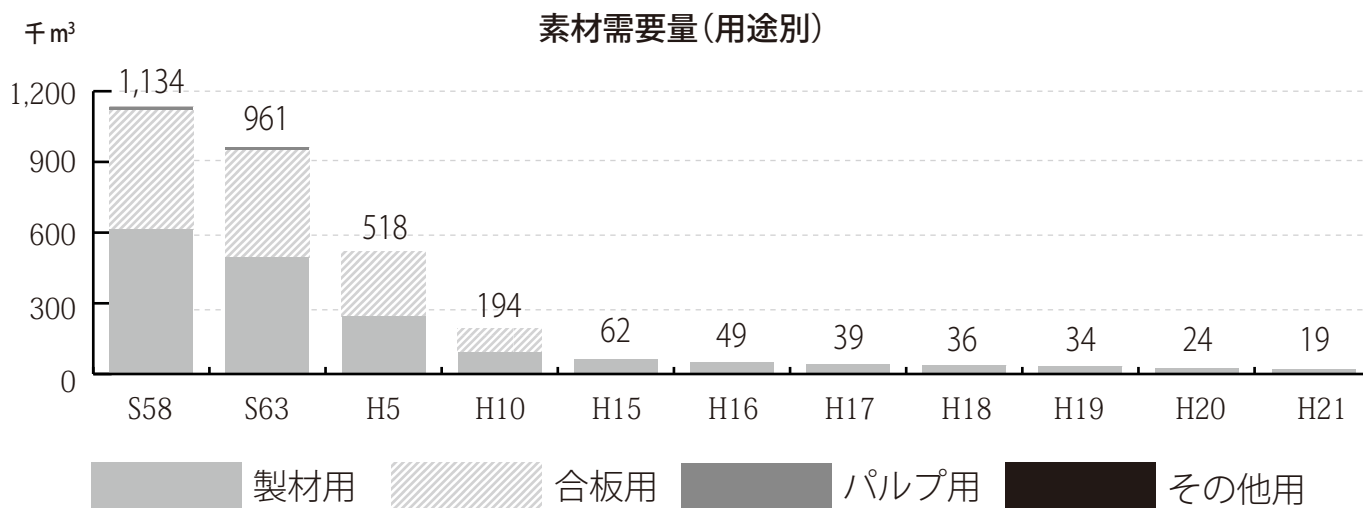
- 昭和50年代の製品輸入の本格化に伴い、大阪港の製材品入荷が増加。平成8年の276万m<sup>3</sup>をピークに減少に転じ、近年では100万m<sup>3</sup>を割り込んでいる
- 阪南港の製材品入荷量は、昭和50年以降、1万m<sup>3</sup>以下で推移



	S50	S54	S58	S62	H2	H4	H6	H8	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
大阪港	20	43	63	118	128	180	212	276	107	117	115	95	94	129	123	114	104	102	86	78
阪南港	2	0.2	0.1	0	0.5	0.9	1.3	0.4	0.3	0.2	0	0.1	0.8	0.7	0.6	0.4	0.7	1.1	0.6	0.3

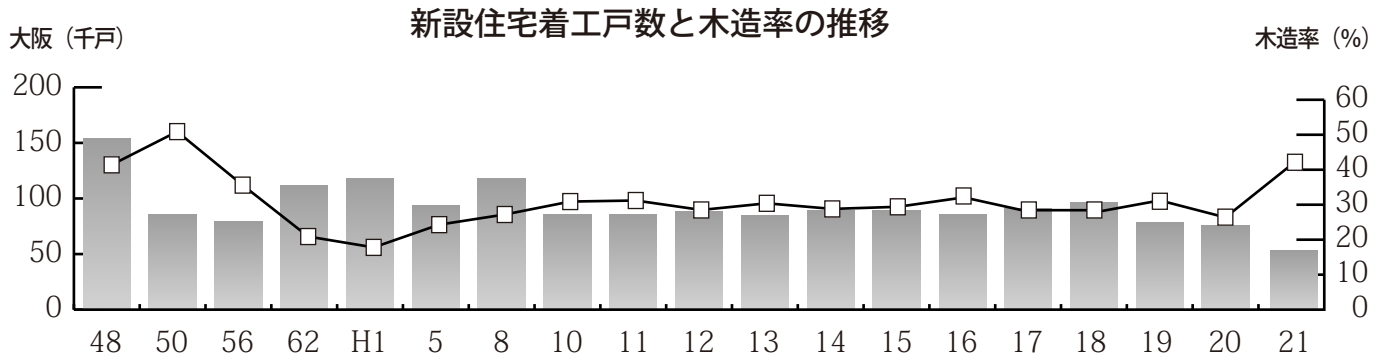
#### 5 用途別素材需要量の推移(府みどり・都市環境室調べ)

- 平成21年の素材需要量19千m<sup>3</sup>の内訳は、外国産材が13千m<sup>3</sup>、他府県産材が3千m<sup>3</sup>、府内産材が3千m<sup>3</sup>で、木材の自給率は15%



## 6 府内の新設木造住宅数と木造率の推移(府みどり・都市環境室調べ)

○府内の新設住宅着工戸数は、平成8年の118千戸をピークに減少に転じ、平成21年は平成20年に比べて22,000戸減少の54,444戸であったが、木造率は増加

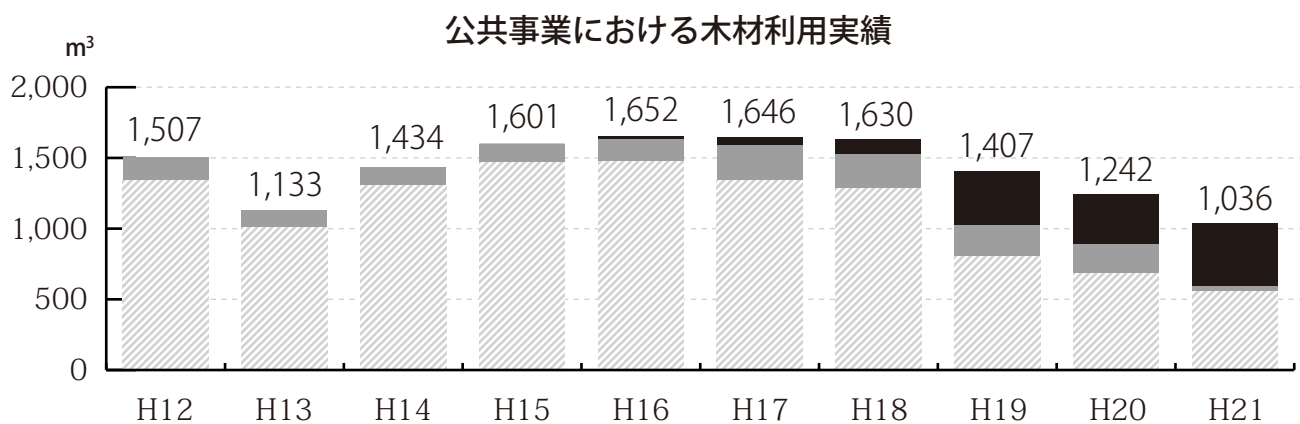


	S48	S50	S56	S62	H元	H5	H8	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
大阪	154	86	79	112	118	94	118	86	86	88	85	89	89	86	92	96	78	76	54
木造率	41.4	50.9	35.6	20.9	17.8	24.3	27.2	30.9	31.2	28.5	30.4	28.8	29.4	31.8	28.5	28.5	31.1	26.7	41.9

【月間住宅着工統計】

## 7 公共事業における木材利用量の推移(府みどり・都市環境室調べ)

○「大阪府木材利用推進指針」の木材利用目標量(H24年度末)は2,100m<sup>3</sup>  
 ○2,100m<sup>3</sup>は、間伐率20%の森林、約120haから発生する間伐材積に相当



	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
環境農林水産部	1,337	1,009	1,307	1,467	1,474	1,337	1,284	802	681	552
都市整備部	169	121	127	134	161	248	243	223	208	41
その他(他局部)	1	3	0	0	17	61	103	382	353	443

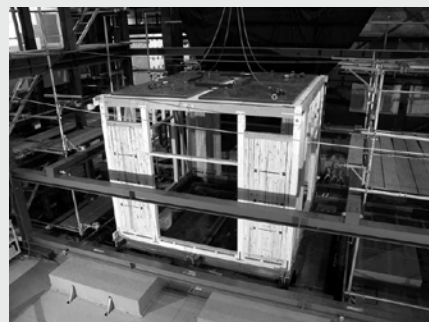
## 8 (社) 大阪府木材連合会の概要 (平成 22 年 3 月現在)

### ■ 沿革

- ・昭和 37 年 1 月 25 日 大阪府木材組合連合会 設立
- ・昭和 56 年 4 月 1 日 社団法人大阪府木材連合会に組織名称変更承

### ■ 組織

- 【会員】 正会員 21 団体 賛助会員 166 社 (平成 22 年 3 月末)
- 【役員】 理事 21 名 (うち会長 1 名、副会長 7 名、専務理事 1 名) 監事 2 名
- 【事務所】 大阪市西区新町 3 丁目 6 番 9 号 大阪木材会館内



木材を活用した耐震補強工法

#### 主な業務

- ①木材利用の促進
  - ・木材を活用した耐震補強工法の普及/公共事業への木材利用推進/合法性木材の認定/ITによる情報提供
- ②相談業務
  - 木材の相談/農林漁業信用基金に係る相談
- ③その他各種の共済制度の普及

#### 関連業務

- 大阪府林業労働力確保支援センター
  - ・林業就業希望者に対する相談/林業事業主等に対する雇用改善の指導/林業体験、研修等の開催/緑の雇用担い手育成対策事業に係る業務等
- 林業・木材製造業労働災害防止協会大阪府支部
  - ・技能講習、特別教育等の開催/安全巡回指導の実施/林材業リスクアセスメントの普及定着/チェーンソー等の振動障害予防対策

## 9 大阪の木材産業の概要

### 1 木材需給の概要

- 素材需給量は、昭和 48 年のピークを境に二度にわたるオイルショックなどの影響により総体的に減少傾向にある。
- 供給面では、素材需要の約 8 割(平成 19 年次)を外国産材に依存しており、港湾を中心に配した加工流通体制が構築されているものの、木材輸出の丸太輸出規制による原木取扱量の減少に伴い、水面貯木場の余剰が増加している。

### 2 木材産業

- 平成 19 年時点の府内における工場数は、製材工場 55 工場、木材チップ工場 6 工場である。



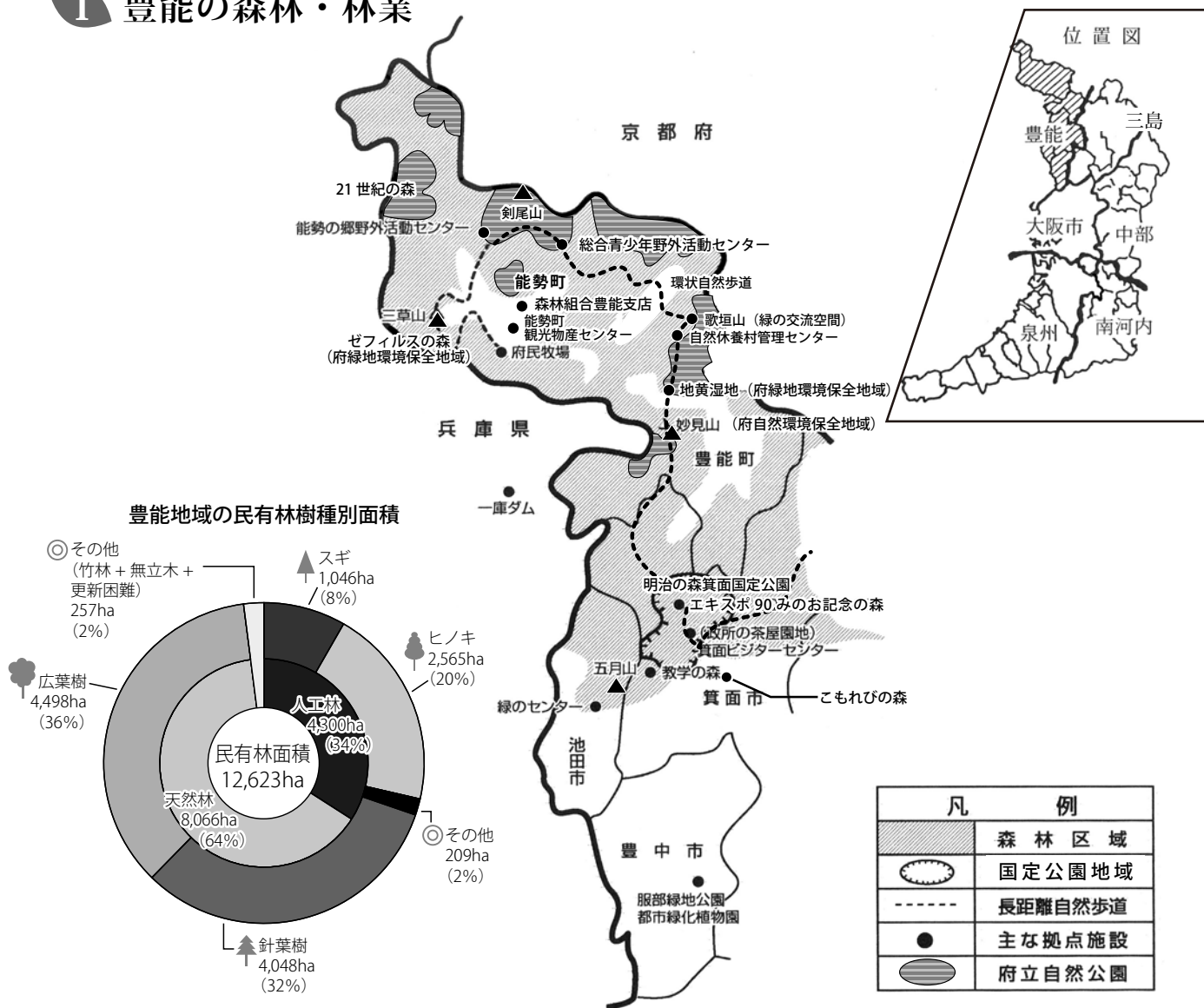
大阪木材コンビナート(岸和田市・忠岡町)

### 3 木材産業拠点の概要(平成 22 年 4 月現在)

団地名	大阪木材コンビナート	大阪港平林木材団地	大阪木材工場団地	大阪銘木団地	
タイプ	臨海型(生産基地)	臨海型(総合基地)	内陸型(加工基地)	内陸型(銘木専門基地)	
所在地	岸和田市、忠岡町	大阪市住之江区平林	堺市美原区	摂津市	
造成地	目的	防災及び木材需給の安定並びに木材産業の振興	戦災復興事業の一環として大正区土地区画整理事業(大正区小林町から集団移転)	需給の急激な拡大に対応するための企業体質の改善、設備の近代化協業	同左
	事業主体	府環境農林水産部(港湾施設は、都市整備部)	大阪市	大阪木材工場団地協同組合	大阪銘木団地協同組合
	年度	昭和 38 ~ 43 年度	昭和 29 ~ 38 年度	昭和 39 ~ 45 年度	昭和 39 ~ 46 年度
	供用開始	昭和 41 年度	昭和 20 年代後半から	昭和 42 年度	昭和 41 年度
企業用地の規模(造成地面積)		83ha (131ha)	72ha (141ha)	53ha (76ha)	8ha (8ha)
企業用地以外の主な土地利用(施設)		木材整理場 18ha 水面貯木場 73ha	木材整理場 42ha 水面貯木場 83ha	共同施設用地 6ha	銘木市場 1.5ha
運営(自治)機関	名称	社団法人大阪木材コンビナート協会 会員数 122	一般社団法人平林会 会員数 200	大阪木材工場団地協同組合 組合員数 50	大阪銘木協同組合 組合員数 56

# 7 地域の森林・林業の概要

## 1 豊能の森林・林業



### 1 地域の現状と課題

豊能地域は大阪府北西部に位置し、古くから交通の要衝として栄え、近代は大阪のベッドタウンとして発展してきた。地域の北～中部の森林率は55%と府平均30%より高く、人工林率は33%と府平均の49%より低い。

当地域の森林はかつて、薪炭の採取など地域の生活と密接に関係していたためアカマツやクヌギ、コナラ林を主とした里山林が多く、野生動植物の豊かさが特色である。

しかし、里山林の多くは燃料革命などの影響で放置状況にあり、荒廃竹林が増加している。荒廃里山林については府民協働の取組みを進めているが、所有者意向や境界不明により活動に制約が生じている。また、野生シカを中心とした鳥獣による林業被害が広がっており、森林所有者の育林に対する意欲が低下している。

### ■ 豊能地域の森林の状況

項目	土地面積 (ha)	森林面積 (ha)	うち 民有林	うち 国有林	森林率 (%)	人工林面積 (ha)	人工林率 (%)	保安林面積 (ha)	保安林率 (%)
豊中市	3,638	2	2	0	0	0	0	2	100
池田市	2,209	545	545	0	25	58	11	71	13
箕面市	4,784	2,781	2,214	567	58	402	14	809	29
豊能町	3,437	2,189	2,189	0	64	1,120	51	234	11
能勢町	9,868	7,673	7,673	0	78	2,720	35	2,433	32
豊能 計	23,936	13,190	12,623	567	55	4,300	33	3,549	27

※森林面積は地域森林計画対象民有林と国有林の合計(平成22年3月31日現在)  
 ※土地面積は国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成21年10月1日現在)

## 2 地域の森林・林業の特色

### (1) 森林組合の活動

豊能地域の森林は、7齢級以下の人工林が多くを占めることから間伐の推進と木材利用を強化するため、大阪府森林組合豊能支店では、丸棒加工施設や製品保管庫を整備し、間伐材の利用や買い取り、加工販売等も行っている。

### (2) 森林の多面的な機能増進を目指して

地域森林は、猪名川上流の一庫ダムの水源として重要であるとともに、良好な景観の形成、多様な生態系の確保など多様な機能を有しており、府では保安林整備事業等の森林整備を通じ、森林の持つ多面的な機能増進に努めている。例えば、従前からのスギやヒノキの植林だけではなく、郷土樹種の広葉樹植栽や、松枯れ被害跡地における天然林育成等、地域に適した自然林への誘導も行っている。

## 3 地域の主な取組み

### (1) 貴重な自然環境の保全管理

大阪府自然環境保全条例に基づき指定される保全地域7箇所のうち3箇所が豊能地域にある。

- ① 三草山は周囲の棚田群と一体となった美しい景観を成し、ヒロオビミドリシジミをはじめとした貴重な動植物が生息(育)
- ② 地黄湿地には、サギソウやモウセンゴケをはじめ97種類の多様な植物が自生し、ハッチョウトンボなど湿地特有の貴重な生物が生息
- ③ 妙見山の山頂付近には、学術的にも貴重なブナと常緑樹(アカガシ等)の混交林があり、野鳥等の生物相も豊富



能勢町山辺から望む三草山一帯の里山

これらの①②の府緑地環境保全地域では、(財)大阪みどりのトラスト協会を中心に地元、府民による保全活動が展開されている。

また、箕面市の市街地の北側の森林は「明治の森箕面国定公園」として古くから府民に親しまれ、平成13年に「府立北摂自然公園」に指定された能勢町から豊能町にかけての6エリアの森林と、これらを結ぶ「おおさか環状自然歩道」とともに森林レクリエーションの場として親しまれている。

### (2) 多様な関係者による森づくり活動

#### ① 池田炭づくり支援協議会

かつて猪名川上流域の里山では、地域の良質なクヌギ材を用い、伝統的な炭窯で「菊炭」が生産され、池田に集荷し、お茶炭の高級品「池田炭」として流通していた。また、地域には良好な薪炭林が広く分布していたものの、社会情勢の変化で炭焼きが衰退し、炭職人も減少したため、良好な薪炭林が減少した。このため製炭者や茶道関係者、商工関係者、ボランティア等が参画して「池田炭づくり支援協議会」を平成16年に設立し、池田炭づくりを再興することにより、良好な里山林再生を目指した活動を展開している。

#### ② アドプトフォレスト

企業等の参画により、森林を環境林化する大阪府のアドプトフォレスト制度を活用し、池田市東畑地区では、(株)リコーと市民団体・五月山グリーンエコーが、子どもたちが自然体験できるよう里山整備に取組み、豊能町切畑地区では、回胴式遊技機商業協同組合が手入れ不足の竹林の管理や周囲に拡大した竹林を伐採し広葉樹を植えるなど里山の風景を取り戻す取組みを行っている。

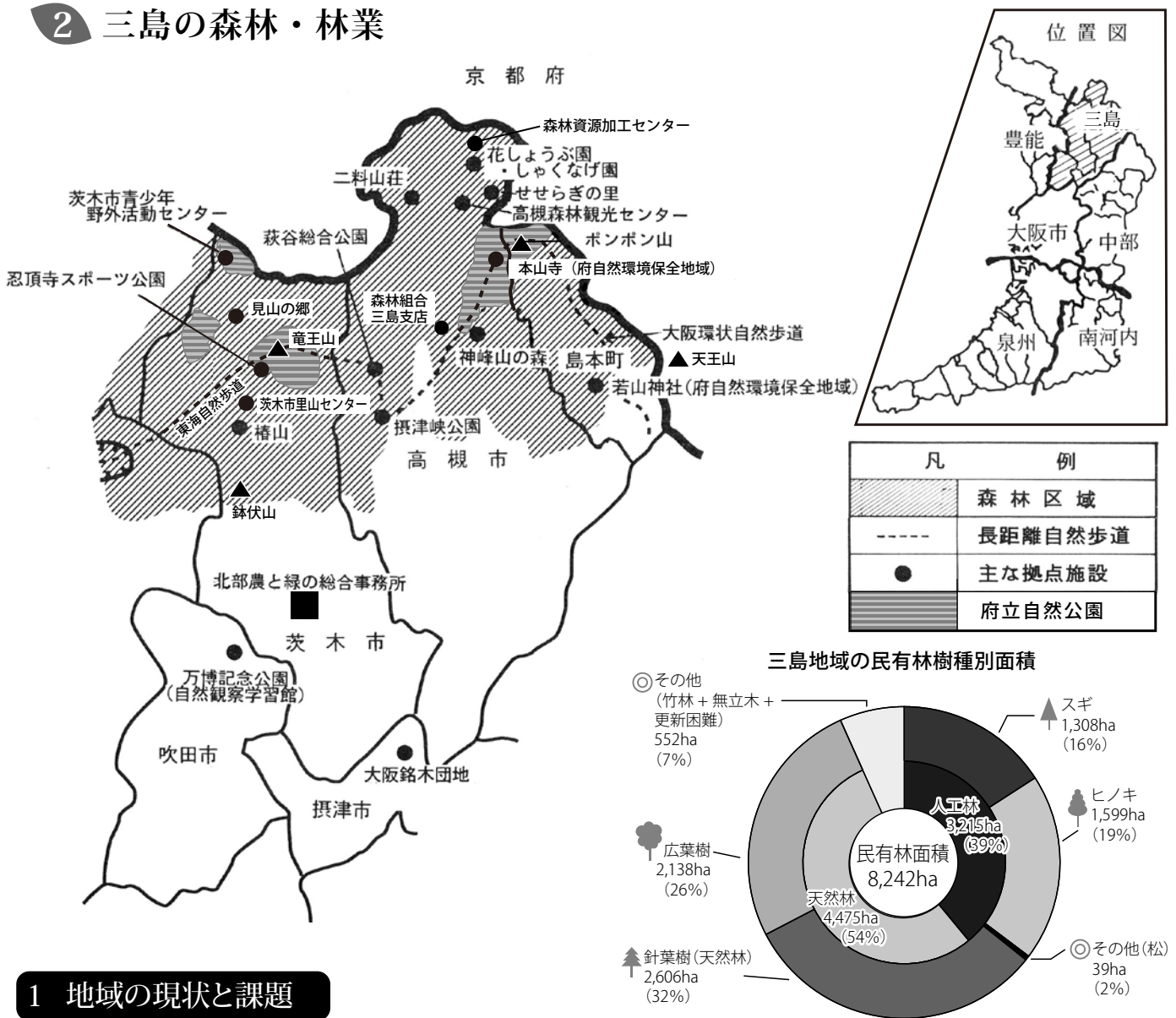


池田炭

### (3) 豊能地域の「森づくり委員会」活動

「森づくり委員会」名	活動目標
地黄住民参加の森づくり協議会 (能勢町)	都市住民と地域住民の交流を図りながら、森づくり活動に取組む。
歌垣の森づくり活動 (能勢町)	歌垣に生息するギフチョウを守るための森づくりを展開する。
池田炭づくり支援協議会 (能勢町・豊能町・池田市・箕面市)	池田炭の再興を通じ「里山の再生」「技術の伝承」「新しいライフスタイルの提案」を目指した取組みを推進する。
東畑の森づくり活動 (池田町)	身近な里山である節句山を、子どもたちが自然を体験し学習できる場として活用できるよう整備する。

## 2 三島の森林・林業



### 1 地域の現状と課題

三島地域は古くから大阪・京都間の要衝として栄え、昭和30年代後半以降の宅地開発に伴う都市化が進む一方で、森林の公益的機能に対する要請が極めて高い地域である。当地域の森林は主に茨木市、高槻市、島本町の北部に偏在し、北摂連山の一角を形成している。

当地域はかつて、薪炭採取などの里山的利用が行われてきたものの林業活動が低調なため、人工林率は38%と府平均の49%より低く、コナラ等を主とした豊かな自然が残っており、このような環境を後世に残していくため、当地域では茨木市、高槻市の森林の一部が平成13年に府立北摂自然公園に指定された。

近年、里山的利用も少なくなり、木材価格の低迷や森林所有者の高齢化により林業経営意欲が低下する中、森林整備の中核を担う森林組合の取り組みはもとより、今後は森林ボランティアの力も取り入れながら、放置森林対策等を推進していく必要があるが、所有者意向や境界不明により活動に制約が生じている。

### ■ 三島地域の森林の状況

市町村	項目	土地面積 (ha)	森林面積 (ha)	うち		森林率 (%)	人工林面積 (ha)	人工林率 (%)	保安林面積 (ha)	保安林率 (%)
				民有林	国有林					
吹田市		3,611	2	2	0	0	0	0	2	100
高槻市		10,531	4,627	4,483	144	44	2,315	50	1,093	24
茨木市		7,652	2,787	2,787	0	36	556	20	225	8
島本町		1,678	971	971	0	58	341	35	331	34
三島 計		23,472	8,387	8,243	144	36	3,212	38	1,651	20

※森林面積は地域森林計画対象民有林と国有林の合計(平成22年3月31日現在)  
 ※土地面積は国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成21年10月1日現在)

## 2 地域の森林・林業の特色

三島地域の人工林は、育成途上のものが大半を占めているため、大阪府森林組合三島支店では、育林作業のほか「観光林業」として高槻森林観光センターの運営や森林資源のリサイクルとして木質ペレットを生産する「環境林業」に取り組んでいる。

## 3 地域の主な取組み

### (1) 都市近郊を活かした森林整備の推進

#### ① 大阪府森林組合森林資源加工センター

三島地域の森林整備の中心である大阪府森林組合三島支店では、平成14年から森林資源のリサイクル活動や地球温暖化防止の観点から、間伐材などの未利用資源から「木質ペレット」を生産する「森林資源加工センター」を稼働させるとともに、「ペレットストーブ」の普及を行っている。平成24年からは「バイオコークス」の本格製造を計画している。



森林資源加工センター(高槻市)

#### ② 「市民林業士の養成」

平成16年に大阪府、高槻市、森林組合が主体となり既存の森林ボランティアとは違った新たな森づくりの担い手として、森林管理の知識や技術を持つ人材を養成する「市民林業士制度」を創設。この講座の卒業生が中心となり、平成17年3月に「NPO法人森のプラットフォーム高槻」が設立され、森林所有者から要望のあった箇所へ順次「林業士」がボランティアリーダーとして出向き、森林整備を推進している。茨木市・島本町においても同様の取組みが行われている。



「市民林業士」による森林整備

### (2) 多様な関係者による森づくり活動

#### ① 天王山周辺森林整備推進協議会

大阪府島本町と京都府大山崎町にまたがる天王山周辺森林では、森林所有者・ボランティア・地域住民・企業・行政等の多様な関係者が参加した「天王山周辺森林整備推進協議会」(平成17年3月3日設立)で定めた整備構想に基づき、約250haの森林整備に取り組んでいる。



天王山周辺森林整備推進協議会

#### ② アドプトフォレスト・冒険の森

企業等の参画により、森林を環境林化する大阪府のアドプトフォレスト制度を活用し、高槻市域では、成合地区で日本IBM(株)が、原城山地区では、ザ・パック(株)、富士ゼロックス大阪(株)、明治製菓(株)、トヨタカローラ新大阪(株)ほか2社が竹林の間伐、植栽等の森林保全活動を実施している。

また、茨木市域では、千提寺地区で日立電子サービス(株)が間伐等の森林保全活動を実施し、長谷地区では(財)イオン環境財団が、竹林を広葉樹へ転換するとともに、「冒険の森づくり」として、子どもたちにも植樹活動に参加してもらうなど森に触れ合う場を提供している。

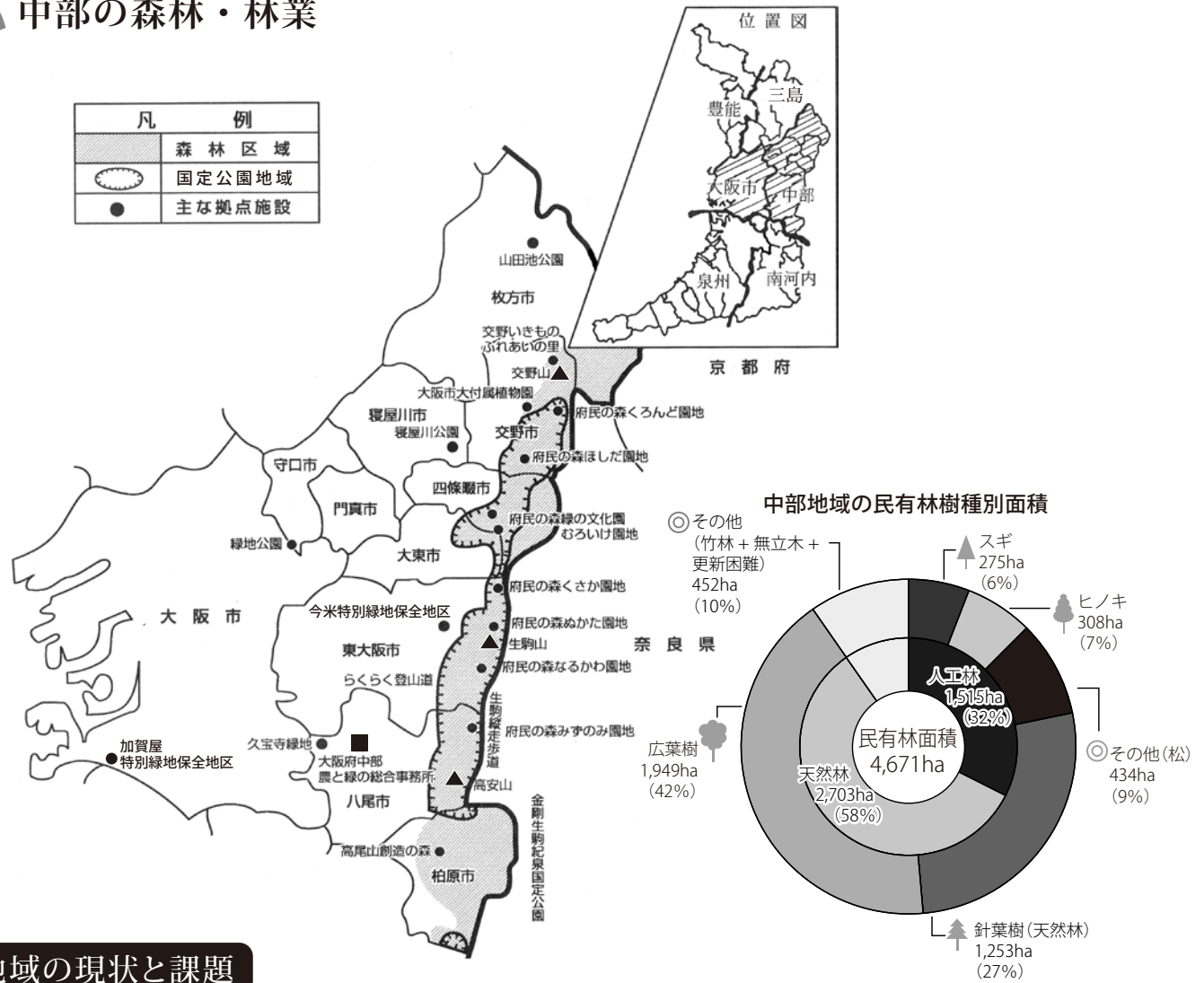


冒険の森づくり活動

### (3) 三島地域の「森づくり委員会」活動

「森づくり委員会」名	活動目標
車作の森保全協議会 (茨木市)	特用林産物の生産を目指した森づくりとあわせて、キツネノカミソリの観察会を開催するなど自然環境教育を推進する。
たかつき森のプラットフォーム推進委員会 (高槻市)	森林管理の知識や技術を習得したボランティアリーダー(市民林業士)を養成するとともに、関係者が連携して森林整備を推進する。
島本桜井地区森づくり委員会 (島本町)	放置竹林を整備し、里山を再生するとともに、竹材の利用を通じて地域の活性化を図る。
天王山周辺森林整備推進協議会 (大阪府島本町・京都府大山崎町)	企業をはじめ多様な関係者が府境界を越えて連携・協働し、天王山周辺の森林整備を推進する。
歴史とふれあう森づくり委員会 (高槻市)	竹林の拡大を防止し、里山の再生を図る。
原城山森づくり協議会 (高槻市)	アドプトフォレストの活動区域を一にする複数の企業が参画し、放置竹林を整備し里山の再生を図る。

### 3 中部の森林・林業



#### 1 地域の現状と課題

大阪府の中央部に位置する中部地域は、南北に走る生駒山系を境に奈良県・京都府と接している。森林区域の70%が金剛生駒紀泉国定公園に指定され、府民の森や野外活動センター、生駒縦走歩道等が整備されている。この生駒山系は大阪から20km圏内に位置し、奈良時代より生駒越の街道が発達するなど交通の要衝として栄え、社寺や古墳、ため池等の歴史資源と一体となった“みどり”は、森林レクリエーションの場として重要な役割を担っている。

しかし、近年、ライフスタイルの変化や不在地主の増加等により、手入れがされずに放置される森林が増加しており、多様な主体が持続的に参加できる森づくり活動の仕組みを構築することが課題となっている。

#### ■ 中部地域の森林の状況

項目 市町村	土地面積 (ha)	森林面積 (ha)	うち 民有林	うち 国有林	森林率 (%)	人工林面積 (ha)	人工林率 (%)	保安林面積 (ha)	保安林率 (%)
枚方市	6,508	458	458	0	7	198	43	37	8
交野市	2,555	961	961	0	38	317	33	290	30
寝屋川市	2,473	15	15	0	1	0	0	0	0
四條畷市	1,874	744	744	0	40	186	25	150	20
大東市	1,827	282	282	0	15	131	46	39	14
東大阪市	6,181	1,009	1,009	0	16	476	47	267	26
八尾市	4,171	482	482	0	12	98	20	18	4
柏原市	2,539	720	720	0	28	109	15	0	0
中部 計	28,128	4,671	4,671	0	17	1,515	32	801	17

※森林面積は地域森林計画対象民有林と国有林の合計(平成22年3月31日現在)  
 ※土地面積は国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成21年10月1日現在)



## 2 地域の森林の特色

クヌギやコナラなどの雑木林が大半を占めている。生駒縦走歩道など多数のハイキングコースや大阪府民の森のほか「交野いきものふれあいの里」や「高尾山創造の森」など、多くの森林利用拠点があり、森林レクリエーションの場として多くの府民が利用している。

〔大阪府民の森〕

府政百年を記念して大阪府が昭和42年より生駒山系の利用拠点として整備を進めてきた。らくらく登山道からぼくらの広場・「山桜の苑」へ至るなるかわ園地（東大阪市）をはじめ、ほしだ園地・くろんど園地（交野市）、緑の文化園むろいけ園地（四條畷市）、くさか園地・ぬかた園地（東大阪市）、みずのみ園地（八尾市）の7園地（約600ha）がある。



らくらく登山道

## 3 地域の主な取組み

### (1) 多様な主体による森づくり活動

#### ① 生駒山系花屏風の取組…「将来ビジョン大阪」、「みどりの大阪推進計画」

大阪府では放置森林対策の一つとして『生駒山系花屏風』の取組を推進している。大阪の市街地から見た生駒山系を屏風に見立て、関係市や市民、企業、ボランティア団体と協働で、花木や紅葉木を15年間に1万本植えることにより地域の魅力向上につなげる。

平成21年度は、アドプトフォレスト制度による企業の森づくり活動や「おおさか山の日」行事等により、17箇所ですべて1,000人以上が参加し、ヤマザクラ等を約2,000本植樹している。



市民参加による植樹

#### ② 生駒の森運営協議会

生駒山系を豊かな森林にすることを目的として平成17年に設立され、企業や大学、行政等が協働して東大阪市域を中心に活動している。本協議会では、個人による間伐等の森林整備活動を、その内容に応じてCO<sub>2</sub>の削減量に換算し、削減量に応じて企業が提供する特典と交換できる「森の貯金箱CO<sub>2</sub>制度」を実施している。

また平成22年は間伐材の搬出及びチップ化施設への搬入作業を行い、住宅資材等に活用することにより炭素を貯蔵するモデル活動に取り組んでいる。



間伐材の搬出

### (2) 中部地域の森づくり委員会の活動

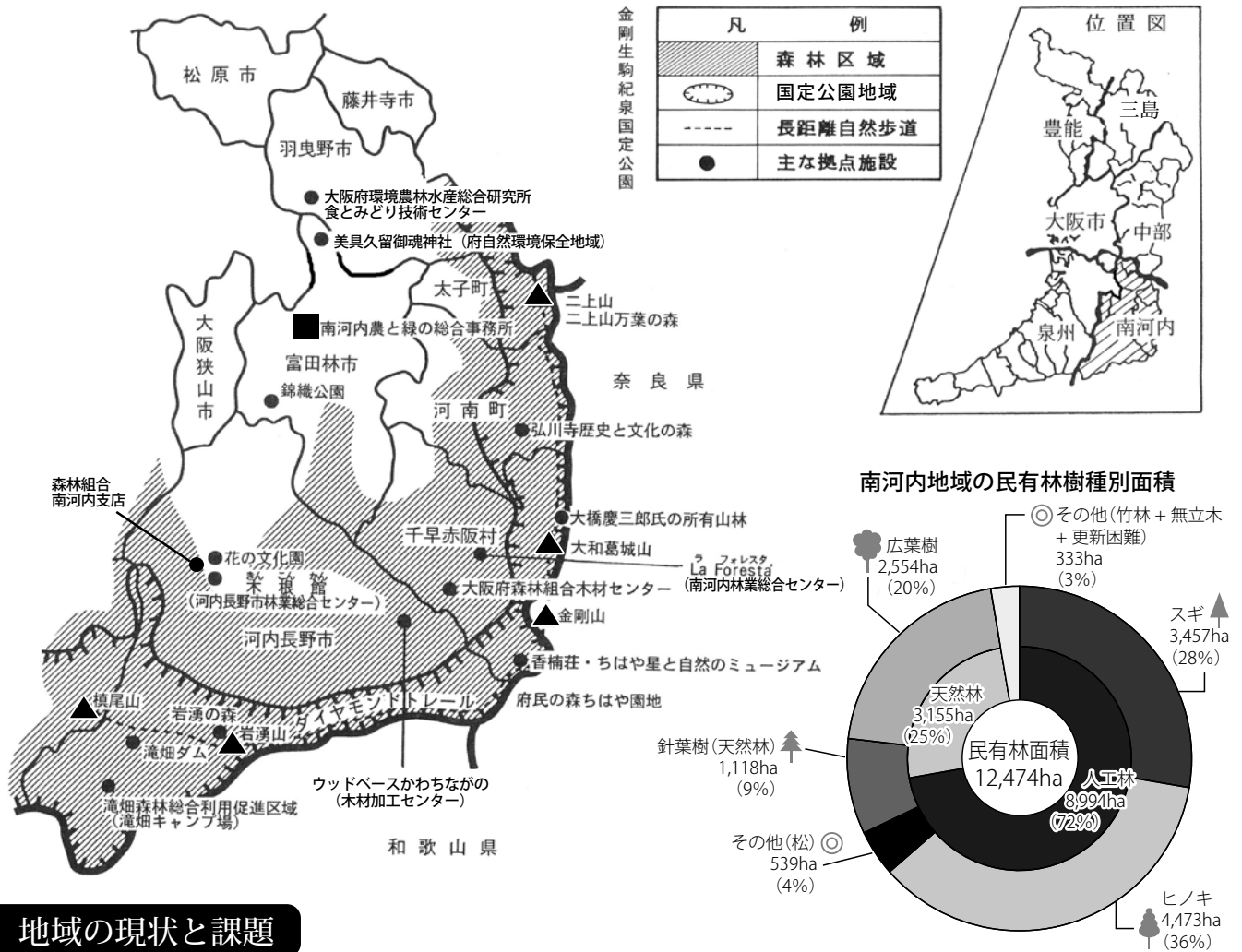
多様な主体が参画し地域の森づくりを推進する組織として、津田地区森づくり推進委員会・穂谷森づくり委員会（枚方市）、倉治さとやま委員会（交野市）、枚岡地区鎮守の森づくり委員会（東大阪市）、柏原市学びの森づくり委員会（柏原市）が活動している。

これらの委員会は、森づくりニュースの発行や地域アンケートの実施、森づくり行事の開催、小学生への森林体験学習等の様々な取組を進めている。



枚岡地区鎮守の森づくり委員会の活動

## 4 南河内の森林・林業



### 1 地域の現状と課題

南河内地域は大阪府の南東部に位置し、北を大和川、東を奈良県、南を和歌山県、西を泉州地域に囲まれた6市2町1村を包括し、総面積は約290km<sup>2</sup>で府域の約15%を占めている。本地域の山地は、奈良県及び和歌山県と接し、金剛山地と和泉山脈の東部分に位置している。府内最高峰の金剛山(1,125m)、大和葛城山(960m)、岩湧山(897m)などがそびえ、府内では比較的起伏の大きい山筋が形成されている。

本地域の森林面積は12,560haで人工林率は72%と高い。また、これら山間部の7,840haは、金剛生駒紀泉国立公園区域に指定されており、府民の森ちはや園地や大和、南北朝時代の史跡が多く見受けられる。また、二上山、金剛山、岩湧山、滝畑ダム周辺等は、都心部からのアクセスの良さも相まって、野外レクリエーションの場として広く府民に親しまれている。

本地域では、古くから集約的な林業が営まれ、森林資源の内容は年々充実しつつある。しかしながら材価の低迷や後継者問題等、森林・林業を取り巻く諸情勢が依然厳しい中で、今後この豊富な資源をいかに活用していくかが、大きな課題となっている。

### ■ 南河内地域の森林の状況

項目 市町村	土地面積 (ha)	森林面積 (ha)	うち		森林率 (%)	人工林面積 (ha)	人工林率 (%)	保安林面積 (ha)	保安林率 (%)
			民有林	国有林					
富田林市	3,966	253	253	0	6	128	51	2	1
河内長野市	10,961	7,316	7,316	0	67	5,248	72	3,963	54
羽曳野市	2,644	247	247	0	9	161	65	1	0
太子町	1,417	515	515	0	36	165	32	2	0
河南町	2,526	1,214	1,214	0	48	650	54	409	34
千早赤阪村	3,738	3,015	2,929	86	81	2,655	88	1,267	42
南河内 計	25,252	12,560	12,474	86	50	9,007	72	5,644	45

※森林面積は地域森林計画対象民有林と国有林の合計(平成22年3月31日現在)  
 ※土地面積は国土交通省全国都府県市区町村別面積調(平成21年10月1日現在)

## 2 地域の森林・林業の特色

河内長野市、河南町、千早赤阪村等にまたがる約 13,000ha の森林は、約 300 年の歴史を持つ人工林地帯であり「河内林業地」と呼ばれている。

河内林業の起源は、灘の酒樽丸太材生産を目的とした造林といわれており、奈良の吉野林業の影響を受けた、スギ・ヒノキの混交密植造林と、こまめな間伐・択伐による集約施業が特徴である。生産される材は通直・完満で、年輪幅が細かく均一な粘りのある良質材として、市場でも高い評価を得ており、現在「おおさか河内材」の名称で独自のブランド化を進めている。



良質な「おおさか河内材」

## 3 地域の主な取組み

### (1) 大阪府森林組合の取組みについて

本地域には大阪府森林組合南河内支店があり、河内林業の中心的担い手として、機械化林産事業による集約的な森林施業への取組みや各種森林整備事業のほか、次のような様々な活動を展開している。

#### ①「ウッドベースかわちながの」

河内長野市にある大阪府森林組合経営の国産材製材加工施設。生産する製材品は全て、人工乾燥・モルダー仕上げを徹底し、流通コストを抑えるため、工務店等と連携し、市場を通さず直接建設業者へ納入する独自の産直販売体制を整えている。また、現場見学会を開催するなど、顔の見える家づくりに積極的に取り組み、おおさか河内材の需要拡大と、地域林業全体の活性化を図っている。



ウッドベースかわちながの

#### ②「木材共販所」

千早赤阪村にある府内唯一の国産材専門の原木市場。おおさか河内材を主体とした府内産木材の流通拠点として、木材の販売だけでなく、林業相談や情報提供の場としても活用されている。また、隣接地には開発行為で発生した伐採木をはじめ、共販所内で発生する木くずや間伐材等をバイオマス燃料として利用するためのチップを生産する「南河内樹木リサイクルセンター」が併設されている。



木材共販所

### (2) 南河内地域の府民参加による森づくり活動について

#### ①「弘川寺歴史と文化の森ふれあい推進協議会」

河南町弘川にある中世の歌人・西行法師のゆかりの地である「弘川寺歴史と文化の森」をフィールドに、地元地区代表、地元小学校、NPO 法人里山俱樂部、森林組合、河南町、大阪府等の多様な主体の参画により、ヤマザクラ・クヌギ・コナラの広葉樹林やスギ・ヒノキ林等の豊かな自然環境を守り育てる活動を行っている。



弘川寺歴史と文化の森

#### ②「アドプトフォレストの取り組み」

放置森林対策のため、4つの企業・団体が森づくりに参加している。

ヤマザクラ等の植栽や間伐など、地元と一体での活動を展開しており、活動での伐採木を搬出し有効に利用する取り組みも行っている。

#### ③「おおさか河内材利用促進ネットワーク協議会」

森林組合、工務店・建築士・木材関係者有志等の参画で、地産地消として「おおさか河内材」を使った木の家づくりを提唱し、地域材の利用促進を進めている。

### (3) 路網整備による林業の効率化

#### ①「大橋慶三郎氏所有山林(千早赤阪村水分内)」

○大阪府指導林家、大橋慶三郎氏の所有する山林約 100ha は、独自の省力林業経営により、林内に作業道が高密度(247m/ha)に整備され、きめ細やかな森林作業が可能となっている。

○第 32 回農林水産祭林産部門の天皇杯を授賞するなど、独自の林業経営が全国的にも高く評価されており、年中多くの視察者が訪れている。

※視察申し込みは、大阪府みどり・都市環境室みどり推進課 森づくり支援グループまで。

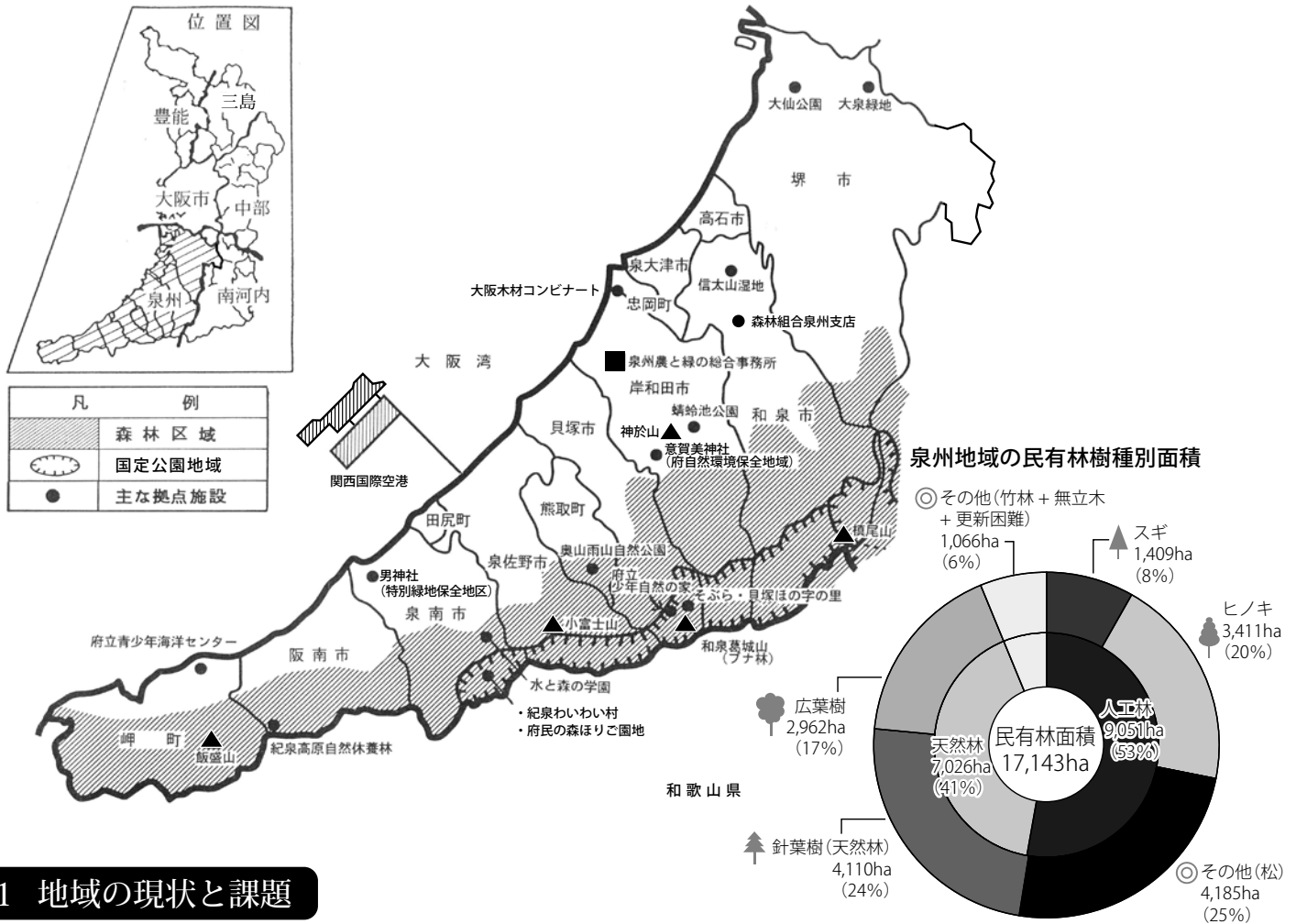
#### ②「石見川森づくり委員会」

河内長野市石見川流域において、森林所有者有志が集まり、長伐期施業を基本にしたスギ、ヒノキ林分の循環型森林経営を検討している。現在は、葉枯し乾燥や新月伐採等良質材生産方法の検討のほか、メンバーと、大阪府森林組合が開設した高密度作業路を利用した集約的森林施業による効率化を進めている。



大橋慶三郎氏の所有山林

## 5 泉州の森林・林業



### 1 地域の現状と課題

泉州地域は、大阪府の西南部に位置し、東は南河内地域、南は和泉山脈をはさんで和歌山県と接し、北西は大阪湾を望む、総面積 571km<sup>2</sup>、9市4町からなる地域である。

大阪の都心部から 15～55km の範囲にあり、古くから商工業の盛んな堺市や城下町であった岸和田市を中心に発展した地域で、平地部には府下の農地の約 38% を占める約 5,640ha の農地が広がり、府内有数の農業地帯として、水ナス、タマネギ、キャベツなどの生産が盛んに行われている。

また、この地域には大きな河川がなく、古くから農業用水確保のためかんがい用のため池が発達し、山地部は和歌山県と接して東西に伸びる和泉山脈を中心に森林地域が広がっている。

一方、臨海部は埋立てが進みコンビナートが形成されているほか、泉州沖には平成 6 年に開港した関西国際空港があり、平成 19 年度の 2 期滑走路の完成により、ベイエリアを中心に産業・文化とともに地域の発展が期待されている。

#### ■ 泉州地域の森林の状況

項目 市町村	土地面積 (ha)	森林面積 (ha)	うち		森林率 (%)	人工林面積 (ha)	人工林率 (%)	保安林面積 (ha)	保安林率 (%)
			民有林	国有林					
堺市	14,999	404	404	0	3	77	19	0	0
岸和田市	7,224	1,859	1,859	0	26	1,208	65	687	37
貝塚市	4,399	1,768	1,768	0	40	966	55	401	23
泉佐野市	5,503	1,980	1,980	0	36	881	44	610	31
和泉市	8,498	3,062	3,062	0	36	2,055	67	468	15
泉南市	4,848	2,229	2,229	0	46	1,290	58	692	31
阪南市	3,610	2,007	1,821	186	56	987	49	948	47
熊取町	1,723	497	497	0	29	257	52	165	33
岬町	4,910	3,635	3,523	112	74	1,330	37	791	22
泉州 計	55,714	17,441	17,143	298	31	9,051	52	4,762	27

※森林面積は地域森林計画対象民有林と国有林の合計(平成 22 年 3 月 31 日現在)  
 ※土地面積は国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成 21 年 10 月 1 日現在)

## 2 地域の森林・林業の特色

本地域の森林面積は約 17,000ha で森林率は約 30%である。和泉市は自然条件に恵まれ、河内林業の流れをくむスギ、ヒノキの混交密植造林を特徴とする集約的な林業が営まれており、近年は優良大径材生産の長伐期施業に移行しつつある。また、岸和田市、貝塚市を中心にシイタケ、タケノコ生産を主とした農林複合経営も行われている。

泉州東部の和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市では人工林が多く、近年の材価の低迷や林業経費の高騰、後継者不足等により、地域林業は依然厳しい状況にあるものの、造林事業等により、森林整備を促進する取組みを進めている。一方、泉州西部は土壌が低質で、アカマツや広葉樹の混交林が多くを占め林業生産力は低い。

## 3 地域の子な取組み

### (1) 地域と育む森づくり～放置森林対策の推進～

泉州地域においては、森林を有する 9 市町と森林組合で構成される和泉山系森づくりサポート協議会と連携して、特に重要な森林を「森林機能再生重点地域」に指定し、各地域の林業振興協議会など森づくり委員会との対話を進め、保安林の指定や事業導入等による放置森林の解消を図っている。

また、持続的に森林整備を展開するための作業道の整備や、間伐材を有効活用するため伐採から出荷までのシステム化を進めている。



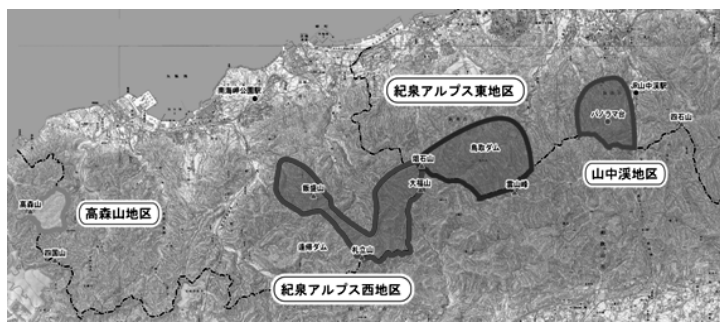
チップとして活用するために収集された間伐材(貝塚市)

### (2) 貴重な自然環境の保全管理

岸和田市、貝塚市にまたがる和泉葛城山には、低い緯度、標高でありながら約 10ha のブナが生息し、学術上貴重なため大正 12 年に国の天然記念物に指定され、(財)大阪みどりのトラスト協会が中心となり保護増殖活動を続けている。

現在、和泉市から泉南市までの和泉葛城山系 4,298ha のエリアが平成 8 年に「金剛生駒紀泉国定公園」に指定され、森林や環境への関心が高まる中、滞りながら里山の生活体験や自然についての学習する里山の自然学校「紀泉わいわい村」が府民の森ほりご園地(泉南市)に整備されるなど、森林の保健文化的な利用も図られている。

また、泉南西部地域(阪南市、岬町)の山系は、山容の美しさや大阪湾を一望する傑出した展望など素晴らしい景観を有している。この貴重な自然環境を後世に引き継ぐため、新たに約 1,000ha の地域を府立自然公園に指定し、貴重な自然環境を無秩序な開発から守るとともに、府民が身近に自然にふれあい、憩える場として整備を進める予定である。



府立自然公園指定候補地(約 1,000ha)



紀泉わいわい村(泉南市)

### (3) 神於山の里山再生への取組み

岸和田市の神於山では、竹林の拡大等、管理不足で荒廃が進んできたため、地元や農林業・漁業関係者、里山ボランティア団体、行政からなる「神於山保全活用推進協議会」が設立され、神於山の自然環境の保全や活用に取り組んでいる。

この協議会は、失われた自然環境を取り戻し生態系の健全性を回復することを目的とする「自然再生推進法」に基づく協議会として位置づけられており、里山の再生としては全国でも初の取組みである。

また、企業が森林の整備に参画する大阪府のアドプトフォレスト制度の第 1 号としてシャープ株式会社が、その後、住友ゴム工業株式会社が神於山の保全活動に加わるなど、多様な主体による森づくり活動のモデルとなっている。



ボランティアによる森づくり(神於山)

## 6 近畿中国森林管理局管内の国有林

近畿中国森林管理局は、近畿・中国地方、北陸・東海の一部2府12県を管轄区域とし、国有林野31万ha、官行造林地3万haを管理運営しています。

民有林の関係者との連携を図りつつ、地球温暖化防止や生物多様性の保全をはじめとする森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、間伐等の森林整備や木材の安定供給を重点的に実施するとともに、開かれた「国民の森林」の実現に向けて取り組んでいます。

### 事例 地球温暖化防止のための間伐等の推進

京都議定書の約束達成に向けた森林の整備のため、間伐を積極的に推進するとともに、森林整備の効率化や木材の利用拡大等の施策を総合的に推進しています。

また、民有林関係者との連携により森林共同施業団地の設定等、多様で豊かな森林づくりと森林資源の有効活用等に取り組んでいます。



【間伐による森林の整備】



【森林土木事業に間伐材使用】

### 事例 国民参加の森林づくりを促進するための人づくり

森林づくりに関心を寄せる多くの市民や企業などが気軽に活動に参加できるよう「ふれあいの森」や「遊々の森」の整備など多様な取組を推進するとともに、未来を担う子ども達が、森林・林業に関する理解を深め、自らの生きる力を育むことにもつながる森林環境教育の取組を進めています。



【森林環境教育の実践活動】(箕面国有林)

## ○大阪府内の国有林

大阪府内の国有林は、約1千haで、箕面市、高槻市、阪南市、岬町に分布しています。

北部の箕面国有林及び南部の紀泉高原国有林は「レクリエーションの森」、「自然休養林」に指定されており、遊歩道、自然探勝路、園地などの施設があり、自然に気軽に触れ合うことができます。

### ●箕面国有林(箕面市)

明治の森箕面国定公園の中心地で、東海自然歩道の西の起点に当たります。広葉樹林と人工林のコントラストが面白く、山頂部から大阪平野が望めます。天然記念物のサル生息地で、隣接して勝運の寺「勝尾寺」があるなど、ハイキング、自然探勝、森林浴など、自然とのふれあいに最適です。また、国有林内では、小学生対象の森林教室や間伐体験のほか、「勝尾寺園地」では小・中学校教員対象の森林環境教育セミナー、「エキスポの森」では「箕面体験学習の森」整備事業として、クヌギ・コナラなどの落葉広葉樹林に転換を図る「オオクワガタの棲める森づくり」に取り組んでいます。



【間伐体験】



【オオクワガタの棲める森づくり】

### ●紀泉高原国有林(阪南市、岬町)

大阪府と和歌山県にまたがる起伏に富んだ高原で最高峰の霊山峰からは和歌山平野、淡路島、和泉平野、六甲山系、関西国際空港など雄大な眺望が広がり、ハイキング、自然探勝など大人から子供まで楽しめます。国有林内の歩道の大部分は見晴らしの良い尾根または稜線を通っています。

尾根や稜線につながるルートでは、利用者や降雨などにより洗掘した箇所に、木製階段を設置するなど、歩道の整備を行っています。



【紀泉高原国有林】



国民の森林・国有林

近畿中国森林管理局

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-75

TEL 050-3160-6700

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

## 大阪府治山治水協会の概要

大阪府治山治水協会では、大阪府の森林を守り育てるため、会員である市町村と連携し、治山・造林等の森林の保全整備及び林道・作業道等の基盤整備に係る事業の円滑な推進を図るとともに、調査研究・研修事業をはじめ、広く府民の方々に森林と林業への理解を深めていただくための普及啓発活動を展開しています。

【設立】 昭和32年7月18日

【役員】 会長1名、副会長2名、理事7名、監事2名、参与1名

【職員】 総務1名、書記1名、技師1名

【会員】 28(20市 7町 1村)

【事務局】 大阪府環境農林水産部 みどり・都市環境室 みどり推進課

### 【事業内容】

- (1) 治山・造林・林道・作業道等事業に関する調査研究及び情報提供
- (2) 技術向上のための講習会、研修会等の開催
- (3) 関係図書配布、啓発宣伝物品の購入
- (4) 関係行政機関に対する政策、制度等の提案
- (5) 府民向けの治山林道事業等のPR活動
- (6) 林道施設賠償保険への加入
- (7) 日本治山治水協会、日本林道協会との連携

## 大阪府林業改良普及協会の概要

大阪府林業改良普及協会では、大阪府の森林を守り育て、美しい大阪の森林を次世代に残していくため、会員と連携し、森林林業の振興及び普及に努めるとともに、講習会や林業技術等に関する相談をはじめ、広く府民の皆様方に大阪の森林と林業への理解を深めていただくための普及啓発活動を行っています。

【設立】 昭和29年2月3日

【役員】 会長1名、副会長1名、常任理事1名、理事6名、監事1名

【職員】 幹事2名

【会員】 102名

【事務局】 大阪府環境農林水産部 みどり・都市環境室 みどり推進課

### 【事業内容】

- (1) 本会事業に関する図書印刷物の刊行並びに諸統計の調査  
(森林林業広報誌「山」の企画編集、「林業新知識」、「現代林業」の配布等)
- (2) 講習会、講演会並びに懇談会の開催
- (3) 林業技術に関する相談並びに実施指導
- (4) 企業に対する調査、統計、指導
- (5) 情報の収集と海外事業の紹介
- (6) 金融その他に関する斡旋、指導

いのち  
— 生命を育むおおさかの山 —  
おおさか「山の日」宣言

私たちが住む大阪は、周辺の山々に抱かれています  
生活の合間に、ふと目を留めるのは周辺の山並みです  
山は、四季折々にその色や姿を変えながら、繊細な美しさ、みなぎる力、  
豊かな実り、自然の厳（おごそ）かさなど、  
季節の彩りと森の恵みを私たちに与えてくれます

空気をきれいにし、生命の源である水をたくわえ、  
動物や植物の生きる場所を与えてくれる山  
私たちの生活の安全を守り、心のうるおいや身体のいやしとしての山  
長い時の流れの中で私たちを見守りつづけてくれる山

かつて私たちは山とともに密接に暮らしてきましたが、  
次第に都市生活の中で山との関わりが薄れています  
今こそ豊かな山の恵みに感謝し、暮らしの中に山との関わりを深め、  
山や森に親しみ、学び、森を守り、森を育てることが必要です

私たちは、様々な恵みを与えてくれる  
このおおさかの「山」を見つめ直し、おおさかの「山」を守り育てながら  
かけがえのない「山」を次の世代に手渡していくことを  
大阪府民として宣言します

平成17年11月12日

### 森林・林業に関するお問い合わせ先

- 環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課 (TEL/06-6944-6747)  
<http://www.pref.osaka.jp/midori/midori/index.html>
- 北部農と緑の総合事務所地域政策室・緑地整備課 (TEL/072-627-1121)  
<http://www.pref.osaka.jp/hokubunm/>
- 中部農と緑の総合事務所地域政策室・緑地整備課 (TEL/072-994-1515)  
<http://www.pref.osaka.jp/chubunm/>
- 南河内農と緑の総合事務所地域政策室・緑地整備課 (TEL/0721-25-1131)  
<http://www1.odn.ne.jp/afn-minamikawach/>
- 泉州農と緑の総合事務所地域政策室・緑地整備課 (TEL/072-439-3601)  
<http://www2.odn.ne.jp/afn-sensyu/>
- 環境農林水産総合研究所環境研究部 (TEL/072-958-6551)  
<http://www.epcc.pref.osaka.jp/reaf/>

### 緑の雇用担い手対策事業について

～新規林業就業者受入れ事業者の研修経費を助成～

- 林業事業者の皆様が、森林整備等の作業を行いながら将来を担う人材を確保・育成する場合に一定額の助成が受けられる「緑の雇用担い手対策事業」を平成18年度から実施しています。
- 本事業の助成手続きにつきましては、下記までお問合せください。

#### 【お問い合わせ先】

- 大阪府林業労働力確保支援センター  
〔(社)大阪府木材連合会内〕  
〒550-0013 大阪市西区新町3丁目6番9号 大阪木材会館内  
TEL/06-6538-7524
- 大阪府環境農林水産部  
みどり・都市環境室みどり推進課 森づくり支援グループ  
〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目  
TEL/06-6941-0351 (内線 2752)



大阪の森林と林業 平成22年12月発行

環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課

編集：大阪府治山治水協会・大阪府林業改良普及協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06(6941)0351 内線2752

このリーフレットは2,000部作成し、一部あたりの単価は180円です。



リサイクル適性®  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。